

科目名	人間学特別輪講			
クラス	[01クラス]	対象学年	1年	開講学期 前期
				曜日・時限 月1
担当教員	宮井 里佳,大塚 聡子,中川 善裕,三浦 和夫			単位区分 _(選択),○(選必)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	とどまるところを知らぬ科学技術の発展と複雑な社会変動の只中において、現代社会とそこに生きる個人の生き方、価値観は、大きな揺らぎをみせている。自然と社会、国家と個人などの関係を見直し、現代におけるヒューマニズムを再興することが必須の課題である。本輪講は、東西諸文明における人間観、世界観の諸相を吟味し、また、心理学諸分野における人間理解の成果を検討することを通じて、総合的な人間学の可能性を探求する。			
授業方針	本講義は、4名の異なる分野の研究者による輪講です。さまざまな分野の研究対象・方法、研究成果を理解し、さらに最終回にはそれらを踏まえて全員で議論することによって、多様で総合的な人間学の可能性を考えます。 ※全教員の講義にそれぞれ1回以上は出席すること。			
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>第1回 人間学とは【全教員】</p> <p>第2～4回 【三浦 和夫】 絵本と箱庭療法についての教育研究:絵本と箱庭療法は、その内容や構造においてよく似ています。センダックの絵本を中心に絵本を読み/聞き/見ながら、箱庭療法についても紹介します。</p> <p>第5～7回 【大塚 聡子】 認知神経科学の知見は、人間の心理過程の解明を進めるとともに、人工知能の発展にも寄与している。このような神経機構の基礎を概説し、それに基づく人間の諸機能について教育研究を行う。</p> <p>第8～10回 【中川善裕】 オペラ『松風』(細川俊夫 作曲)にみる能の美学と現代性について教育研究を行う。</p> <p>第11～13回 【宮井 里佳】 宗教と科学に関する論考を読み、現代における宗教と進化心理学や人工知能との関わりについて教育研究を行う。</p> <p>第14回 討論【全教員】 これまでの研究成果を踏まえて、教員・学生全員で討論を行う。</p> <p>第15回 まとめ及び試験</p>			
準備学習	①各回に指定された文献を事前に読み、授業時に内容説明、および批評ができるように準備すること。 ②研究内容や関心にしたがって紹介された参考文献を読み、自らの研究に役立てること。			
学習到達目標	①認知神経科学や精神分析学、思想・文化研究に関する文献を読み、その研究方法・成果について理解する。 ②文学や能などの作品研究や事例研究を通して、その研究方法・成果について理解する。 ③紹介される研究に対し、自らの専門的知見からコメントできることを目標とする。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①認知神経科学や精神分析学、思想・文化研究に関する文献を読んで、理解し、批評できたか。 ②文学や能などの作品研究や事例研究を理解し、批評できたか。 ③異なる分野の人間についての研究に対し、自らの専門的知見からコメントでき、また議論に参加できたか。		
	成績評価 方法	口頭発表25%、討論参加25%、期末レポート50% ・期末レポートは、最終回授業以後、規定の日時までに、4人の教員の出した課題の中から1つを選んで提出すること。 ・第14回の討論の参加状況、コメントを重視する。		
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。		
教材	教科書:各講師が資料を配付する。 参考書:その都度指示する。			
備考				

科目名	コミュニケーション特別輪講				
クラス	[01クラス]	対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	水1
担当教員	曾我 重司,河原 哲雄,佐藤 由美	単位区分	_(選択),○(選必)		
		単位数	2		
概要 (目的・内容)	情報化社会とは、情報量の増加に比例して人と人の情報伝達・意思疎通が重要となる社会である。いまや世界語の観を呈しつつある英語によるコミュニケーション能力は高度な専門知識を備えた職業人に必須の能力であるが、グローバル化する現代社会のコミュニケーションの問題は単にこうした言語的側面からのみならず、その他の様々な視点から多面的に考察する必要がある。				
授業方針	本講義ではグローバル・コミュニケーションの諸問題について、心理学(曾我, 河原)・教育学(佐藤)という3つの異なる視点から教育研究を行う。講義は担当教員のオムニバス形式で行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>第1回～第5回 河原 哲雄教授 情報化、中でもインターネットの高度化によって個人がアクセスできる情報量 やコミュニケーションの可能性が飛躍的に高まったことが、人間知識獲得や利用、コミュニケーションや協同、ひいては人間の心理のあり方に対してどのような影響を与えつつあるのかを検討する。そのため、コンピュータやその他の人工物、インターネット等のメディアと人間のかかわりに関する最新の研究を概観し、心理学実験や調査、モデル化の新たな手法を用いた教育研究を行う。</p> <p>第6回～第10回 曾我 重司教授 知覚心理学的立場から、特に視覚情報による情報伝達について考察する。ボディ・ランゲージや表情などの知覚や、無生物の動きの生物的印象、アニメーションの表現における動きや因果性の知覚など、動きの知覚という観点からヒトが環境からの情報を抽出するあり方について、様々な現象を通して考察し、情報伝達・意思疎通を理解するための教育研究を行う。</p> <p>第11回～第15回 佐藤 由美教授 国や地域を越えたコミュニケーションは共通の言語を媒介として行われるのが一般的だ。コミュニケーションに言語が果たす役割は大きい。しかしながら、共通な言語さえ持っていれば豊かなコミュニケーションは成り立つのだろうか。豊かなコミュニケーションには言語に加えて、互いの歴史や文化への理解が不可欠である。ここでは教育史、比較教育学の立場から、明治・大正・昭和戦前期の文書を用いて、日本と近隣国がどのように異文化理解を行い関係を構築したのかについて教育研究を行う。</p> <p>なお、各担当教員の順番及び担当曜日時限は変更の可能性がある。 佐藤教授の担当講義は水曜日3限である。それ以外に変更がある場合は初回に指示する。</p>				
準備学習	授業で学んだ知識をもとに、コミュニケーションについて考察を深め、授業中の議論に貢献できるようにする。(60時間)				
学習到達目標	コミュニケーションに関する多面的な知識が習得できたか。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	コミュニケーションの様々な側面に関して理解を深められたか。			
	成績評価 方法	口頭発表30%、討論参加30%、レポート40%で評価する。 レポートは担当教員全員それぞれの課題に対して全て提出しなければならない。			
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。			
教材	教科書: 担当教員の指定による。 参考書: 担当教員の指定による。				
備考	佐藤の授業は水曜日3限におこなう。				

科目名	知識情報特論				
クラス	[01クラス]	対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	火2
担当教員	高橋 広治			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	知識情報処理システムを実現し活用するために必要な知識、概念、手法について教育研究を行う。特に、蓄積された情報から新たな知識を発見するための手法である古典的な統計解析手法や最新のデータ・マイニング手法の教育研究を行う。				
授業方針	授業は議論を重視して対話的に行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>知識情報を活用するためには、問題に応じた様々な分析手法を駆使して、元の生情報から人間が理解することが可能な形をした有用な情報を引き出す必要がある。本授業では、データの数量化、データの可視化、時系列解析、推定と検定、相関と回帰、分散分析、非線形回帰、クラスター分析、シミュレーションなどの各種データ解析手法の高度な活用法について関連文献を輪講して学習する。</p> <p>第1回 知識情報とは  第2回 第1文献の輪講(1)  第3回 第1文献の輪講(2)  第4回 第1文献の輪講(3)  第5回 第1文献の輪講(4)  第6回 第1文献の輪講(5)  第7回 第1文献の輪講(6)  第8回 第1文献の輪講(7)  第9回 第2文献の輪講(1)  第10回 第2文献の輪講(2)  第11回 第2文献の輪講(3)  第12回 第2文献の輪講(4)  第13回 第2文献の輪講(5)  第14回 第2文献の輪講(6)  第15回 レポート作成</p>				
準備学習	(1)授業内容の復習をする。(30時間) (2)教員の指示に従って、次回の授業の準備をする。(30時間)				
学習到達目標	(1)知識情報処理の基礎を学ぶ。 (2)学んだことを実際の問題に応用する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)知識情報処理の基礎を学ぶことができたか。 (2)学んだことを実際の問題に応用することができたか。			
	成績評価 方法	授業参加50%+課題50%			
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。			
教材	適宜紹介する。				
備考					

科目名	ヒューマン・インターフェース特論			
クラス	[01クラス]	対象学年	1年,2年	開講学期 前期
				曜日・時限 月2
担当教員	森沢 幸博			単位区分 _(選択)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	人と機械の境界面となるUI(インターフェース)は、行動科学や認知心理学の知見を取り入れながら日々進化している。人がストレスなくシステムと協調するためには、人の行動や感情を考慮したUI設計が必要となる。 本講義では、UIに関する知識を正しく理解し、豊かなユーザー体験を生み出すUIデザインと評価法の修得を目指す。			
授業方針	インターフェースデザインに関する論文や著書を読み、デザイン専用ソフトウェアを使用してアプリケーションの試作モデルを制作する。 また、ユーザーを想定したサービスや新しいデバイス提案を目的としたコンテンツ研究・調査を行う。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 インタフェース設計基礎 第 2回 UIデザインの基本フレーム 第 3回 認知工学、感性工学に基づくインターフェース設計 第 4回 人間中心デザインプロセス 第 5回 デザインパターンとガイドライン 第 6回 プロトタイプ制作によるアプリケーション評価 第 7回 中間研究報告 第 8回 マンマシン・インタラクション 第 9回 コンテクスチュアル・デザイン 第10回 UXのモデル化とコンセプト作成 第11回 HMIの利用文脈とユーザビリティ評価 第12回 研究課題制作(1)(問題解決型デザイン) 第13回 研究課題制作(2)(コミュニケーション・デザイン) 第14回 課題発表 成果報告 質疑応答 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	授業時に示すレポート課題について事前に調べ、専門用語の意味などについて理解する(10時間) 中間研究報告,最終レポート課題作成(30時間) 指定した教科書の要点をまとめ、UI/UXに関する基礎知識について予習と復習をしておく(20時間)			
学習到達目標	インターフェースに関する知識と応用事例について理解し、専門用語を交えて説明ができるようになる事を目的とする。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	ヒトと機械,人と情報の相互作用に関する基礎知識を理解し、UIデザインに応用可能な提案ができる。		
	成績評価 方法	課題テーマに対する中間レポート20% 最終レポート30% プレゼンによる研究成果発表(中間報告+最終発表)50%		
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。		
教材	教科書:「UXデザインの教科書」安藤昌也 丸善出版 2017年 参考書:「失敗から学ぶユーザインターフェース」中村聡史 技術評論社 2015年			
備考	学科で配布しているノートパソコンを利用して講義を行う。 Photoshop、Illustrator等を使用してUIデザインを行う。			

科目名	人間学特別演習II(東洋思想)			
クラス	[01クラス]	対象学年	1年,2年	開講学期 後期
				曜日・時限 月5
担当教員	宮井 里佳			単位区分 _(選択)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	科学技術が進展した現在、新しい社会のパラダイム、個々人の生き方が求められている。これに対して東洋思想は一つの視座を提供し得る。中国を中心とする東洋思想は、日本を含む東アジア人の思考や感覚を形成してきたものであり、また科学技術の発展を促した思想とは異質のものだからである。この演習では、中国古典の思想、仏教思想などの文献を読み、自ら分析し解釈した結果について発表と討論を行う。			
授業方針	院生の関心・研究テーマおよび研究の進捗状況に合わせ、課題文献を講読し、演習を行う。課題文献は中国語または日本語のものを用いる。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 文献の選定 第2回 課題文献の講読 第3回 課題文献の講読-第2回の続き 第4回 課題文献の講読-第3回の続き 第5回 課題文献の講読-第4回の続き 第6回 課題文献の講読-第5回の続き 第7回 中間発表 第8回 課題文献の講読-第6回の続き 第9回 課題文献の講読-第7回の続き 第10回 課題文献の講読-第8回の続き 第11回 課題文献の講読-第9回の続き 第12回 課題文献の講読-第10回の続き 第13回 課題文献の講読-第11回の続き 第14回 課題文献の講読-第12回の続き 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	①毎回指定の分量の課題文献を読み、日本語訳や要約などを作成しておくこと。 ②さらに、課題文献の内容に関し、必要に応じて調べながら、コメントを考えておくこと。 ③毎回の演習後、必要に応じて、自ら作成した日本語訳や要約に訂正を加え、提出すること。			
学習到達目標	①課題文献を正確に読解し、②さらに調査研究、分析を加え、③課題文献に対する自らの研究をまとめることを目標とする。			
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	①課題文献を正確に読解できたか。②適切な調査研究、分析を加えることができたか。③新たな知見、自らの解釈をまとめることができたか。		
	成績評価 方法	毎回の課題50% 期末レポート50%		
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。		
教材	教科書:開講時に指定する。 参考書:随時指導する。			
備考				

科目名	コミュニケーション特別演習III				
クラス	[01クラス]	対象学年	1年,2年	開講学期	前期
				曜日・時限	火5
担当教員	佐藤 由美			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	国際交流が盛んな現代社会では、異文化間コミュニケーションが必要とされる機会が多い。言語や宗教、風俗・習慣などが異なる人々と豊かなコミュニケーションを築くには、他者(異文化)に対する理解が不可欠である。本演習では、韓国をはじめとする東アジア地域の歴史を学ぶことによって、生活習慣や思考様式の共通点や差異がどこから生じるのかを考察したい。また、日本のアジア認識がどのように形成されたのかを研究、分析し、発表や意見交換を行っていく。				
授業方針	前半は担当教員が資料を準備し、解説を加えながら演習を進めていく。後半は受講者が文献の解説を担当し、その進捗状況に応じて演習を進める予定である。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 異文化理解とはどういうことか 第 2回 日本と東アジアの関係史(近代前) 第 3回 日本と東アジアの関係史(近代) 第 4回 日本と東アジアの関係史(現代) 第 5回 文献講読およびディスカッション① 第 6回 文献講読およびディスカッション② 第 7回 文献講読およびディスカッション③ 第 8回 小括(第5回～第7回) 第 9回 文献講読およびディスカッション⑤ 第10回 文献講読およびディスカッション⑥ 第11回 文献講読およびディスカッション⑦ 第12回 文献講読およびディスカッション⑧ 第13回 小括(第9回～第12回) 第14回 日本の東アジア認識の形成、異文化理解に向けた今後の課題 第15回 レポート作成				
準備学習	配布資料について専門用語の読みや意味など、下調べをしておくこと。 自分の考えを整理しておくこと。				
学習到達目標	日本と東アジア地域の歴史的な文献を講読することによって、生活習慣や思考様式の共通点と差異、日本のアジア認識の形成について考える。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①歴史的な文献を講読することができたか。 ②①をもとに自分の考えを深めて発表し、活発な議論を行うことができたか。			
	成績評価 方法	演習への取組み 50% レポート50%			
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。			
教材	教科書:特に指定せず、資料を配布する。 参考書:演習のなかで随時、紹介する。				
備考					

科目名	意思決定支援システム特論			
クラス	[01クラス]	対象学年	1年	開講学期 後期
				曜日・時限 月4
担当教員	宮崎 洋			単位区分 _(選択)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	本講義は、主として企業組織を対象に、組織が激変する環境の中で、直面する経営の諸問題をいかに解決をしていくか？という課題を、経営組織論などの社会科学の立場から探求していく。			
授業方針	組織の問題解決・意思決定を支援していく手法や技術に触れながら説明し、意思決定を支援するDSSや、人工知能技術を問題解決過程に利用することなどについて教育研究を行う。			
学習内容 (授業 スケジュール)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 意思決定論の基礎</li> <li>2. 個人の意思決定とグループ及び組織の意思決定</li> <li>3. 意思決定論の諸側面</li> <li>4. 経営科学からの意思決定(1)</li> <li>5. 経営科学からの意思決定(2)</li> </ol>			
準備学習	意思決定論の土台になっている科学的手法について学ぶ。			
学習到達目標	意思決定論の土台になる統計学に対する基礎的知見・技術の獲得を目指す。 意思決定と心理学との関わりを学ぶ中で、人間への理解を深める事を目指す。			
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	意思決定の社会科学的な側面を理解したか。		
	成績評価 方法	授業参加度を50%, レポート50%		
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。		
教材	随時配布する。			
備考				

科目名	地域情報化特論				
クラス	[01クラス]	対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	火3
担当教員	小寺 昇二			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	人口減少、過疎化などにより、地域経済の先行きについては課題が多い。「地域創成」の旗印による政府の施策、自治体の施策及び地域における産業、企業の状況を調査・研究し、課題解決のためのITの活用について考えていく。				
授業方針	授業中はネット検索によって各自が調査、思考し、自律的に本質に切り込んでいけるような運営を心がける。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 地域経営とは？ 第2回～第4回 国の施策と自治体の施策の全体像 第5回～第8回 課題の発見 第9回～第14回 課題の解決 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	予習は特に必要ないが、地域経済、地域経営に関するニュースなどに日頃から注意を払い考えておくと、授業に役に立ち、各自の学ぶ意欲、理解度に大きなプラスになる。				
学習到達目標	地域一般、地元の経済・企業経営に関して、自分なりの考えが持てること				
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	・地元の経済、企業経営上の課題、及び解決策について自分なりの考えが持てること			
	成績評価 方法	出席及び授業への積極参加50%、レポートまたは試験50%			
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。			
教材	適宜配布、紹介する。				
備考	毎回PCを持参すること				

科目名	企業戦略特論				
クラス	[01クラス]	対象学年	1年,2年	開講学期	前期
				曜日・時限	月3
担当教員	宮崎 洋			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	企業戦略の基本について、輪講を中心に学習する。主なテーマは、戦略とは何か、パフォーマンスとは何か、脅威の分析、機会の分析、企業の強みと弱み、などである。				
授業方針	教材を使った輪講とケーススタディ、個人ワークを組み合わせる。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 業界の構造分析法 第 2回 競争の基本戦略 第 3回 競争業者分析のフレームワーク 第 4回 マーケット・シグナル 第 5回 競争行動 第 6回 買い手と供給業者に対する戦略 第 7回 業界内部の構造分析 第 8回 業界の進展・変化 第 9回 多数乱戦業界の競争戦略 第10回 先端業界の競争戦略 第11回 成熟期に移行する業界の競争戦略 第12回 衰退業界の競争戦略 第13回 グローバル業界の競争戦略 第14回 戦略デシジョンのタイプ 第15回 とりまとめとテスト				
準備学習	資料の通読。				
学習到達目標	企業経営における戦略を理解し、実践に結び付けるための基礎を養う。				
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	競争戦略の基本的考えについて理解しているか。 自ら考察し、考察結果を的確に表現、レポートできるか。			
	成績評価 方法	授業参加度、講義への積極的参画50%、レポート50%。			
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。			
教材	参考図書: 期初に決定する。 その他の資料については適宜紹介する				
備考					

科目名	経営情報システム特論				
クラス	[01クラス]	対象学年	1年,2年	開講学期	前期
				曜日・時限	火5
担当教員	林 信義			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	企業の活動を整理、計算、集計、記録するためには、会計処理を行うシステムの使用が必要不可欠となっている。本講義では経営情報の中でも会計情報に焦点を当て、会計のコンピューター処理の仕組みや役割、機能などを学習する。この講義を通じて、会計に関する知識の修得とともに、コンピューターを使った会計処理の実践に取り組んでいく。				
授業方針	会計と会計処理について効率的に学習していくために、表計算ソフトのExcelを使用し、演習を中心に進める。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 会計の基礎 第 2回 会計とコンピューター処理 第 3回 現金管理(1)－現金出納帳 第 4回 現金管理(2)－現金収支計算書の作成 第 5回 現金管理(3)－現在価値計算 第 6回 仕入管理と売上管理(1)－仕入と売上 第 7回 仕入管理と売上管理(2)－仕入取引と仕入管理 第 8回 仕入管理と売上管理(3)－売上取引と売上管理 第 9回 在庫管理(1)－商品有高帳の記入 第10回 在庫管理(2)－商品有高帳の作成 第11回 在庫管理(3)－売上総利益の計算 第12回 会計の役割とワークフロー(1)－会計の役割 第13回 会計の役割とワークフロー(2)－実習 第14回 会計の役割とワークフロー(3)－実習 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	講義開始時に前回の内容について確認を行う。復習により理解度を高めておくこと。				
学習到達目標	社会人となり会計業務、経理業務を行う際の基本的な力が身につく。 企業経営におけるExcelの活用方法が身につく。				
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	会計処理の一連の流れを理解できたか。 Excelを活用し、帳票類を作成できるか。			
	成績評価 方法	出席状況及び参加意欲(問題演習)50%、課題・レポート50%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会研究科規程第15条に定める。			
教材	(1)講義内容に従った資料を配布する。 (2)適宜、参考資料を紹介する。				
備考					

科目名	e-ビジネス特論				
クラス	[01クラス]	対象学年	1年,2年	開講学期	前期
				曜日・時限	火3
担当教員	小寺 昇二			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	e-ビジネスは「今」を反映し、常に変貌しているビジネスである。過去や現在についての内容を座学として「覚える」のではなく、将来にも繋がる「本質」を各自が自分の頭で考え、掴むプロセスが重要である。本質の理解をベースに今後のe-ビジネスの展開及び産業全体への影響について考える。				
授業方針	授業中はネット検索によって各自が調査、思考し、自律的に本質に切り込んでいけるような運営を心がける。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 eビジネスとは？ 第2回 e-ビジネスの歴史 第3回 e-ビジネスの本質(仮説作成) 第4回 企業研究(マイクロソフト) 第5回 企業研究(グーグル) 第6回 企業研究(アマゾン、e-ベイ) 第7回 企業研究(アップル) 第8回 企業研究(ペイパル、フィンテック) 第9回 企業研究(ツイッター、フェイスブック、YouTube) 第10回 企業研究(Airbnb) 第11回 企業研究(IOT, AI) 第12回 企業研究(VR, AR, Spotify) 第13回 起業の仕組み 第14回 eビジネスの本質(仮説検証) 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	予習は特に必要ないが、授業で採り上げる企業の商品、サービスなどについて、日頃から注意を払い、「このビジネスの勘所、本質は何なんだろう」(つまり、強み・弱み、他企業と比較した優位性など)を考えておくと、授業に役に立ち、各自の学ぶ意欲、理解度には大きなプラスになる。				
学習到達目標	代表的なe-ビジネスについて、そのビジネスモデル、本質などについて「腹落ち」し、かつ将来の展開について自分なりの考えを持てること				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	・代表的なe-ビジネスについて、それぞれのビジネスモデル、本質、そして将来の展開などについて自分の言葉で他人に説明できるか			
	成績評価 方法	出席及び授業への積極参加50%、レポートまたは試験50%			
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。			
教材	適宜配布、紹介する。				
備考	毎回PCを持参すること				

科目名	システム開発方法特論				
クラス	[01クラス]	対象学年	1年,2年	開講学期	前期
				曜日・時限	金2
担当教員	田中 克明			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	情報システムの開発にはさまざまな技術が用いられる。また、さまざまな技術の融合であり、多くの人間が関わるシステムの開発プロジェクトには、その管理の技術が必要となる。これらについて学ぶとともに、各自の研究などをシステム開発プロジェクトと見立て、技術の適用が行えるようになることを目指す。				
授業方針	情報システムの開発に用いられる技術、およびシステム開発プロジェクトの管理に用いられる手法を取り上げ、解説を行うとともに、各自が進めている研究プロジェクトを例として、取り上げた手法の適用を各自で試みる。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 情報システムの要素技術(1) 第 2回 情報システムの要素技術(2) 第 3回 情報システムの要素技術(3) 第 4回 情報システムの要素技術(4) 第 5回 システム開発プロジェクトの管理手法(1) 第 6回 システム開発プロジェクトの管理手法(2) 第 7回 システム開発プロジェクトの管理手法(3) 第 8回 システム開発プロジェクトの管理手法(4) 第 9回 情報システムの保守(1) 第10回 情報システムの保守(2) 第11回 開発プロジェクトへの適用(1) 第12回 開発プロジェクトへの適用(2) 第13回 開発プロジェクトへの適用(3) 第14回 開発プロジェクトへの適用(4) 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	各回で取り上げたトピックについて調査を行うこと。また、例とするプロジェクトの収集と適用イメージの検討を行うこと。				
学習到達目標	情報システムの開発に求められる技術とプロジェクト管理の手法を理解し、実際のプロジェクトに適用することができる。				
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	情報システムの開発に求められる技術とプロジェクト管理の手法を理解し、実際のプロジェクトに適用することができるか。			
	成績評価 方法	おおそ授業中課題80%、期末課題20%の割合で総合評価。			
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。			
教材					
備考					

科目名	ネットワーク・システム特論				
クラス	[01クラス]	対象学年	1年,2年	開講学期	後期
				曜日・時限	金2
担当教員	田中 克明			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	ネットワーク・システムに必要な技術を学習し、各自でTCP/IPネットワークを構築すること、クラウドを用いた情報システムを構築することなどを学習する。				
授業方針	コンピュータネットワークを支える基礎となる技術についての講義と、実際にネットワークシステムを構築する演習を交えて行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 情報の表現 第 2回 通信における変調・復調方式 第 3回 情報量と情報の圧縮 第 4回 画像などの非可逆圧縮 第 5回 コンピュータネットワーク 第 6回 L3 ネットワーク 第 7回 L2 ネットワーク 第 8回 コンピュータネットワークの構築 第 9回 L5～L7 ネットワーク 第10回 Web上のネットワーク 第11回 クラウドコンピューティング 第12回 クラウドサービスの利用 第13回 認証と認可 第14回 ネットワークの運用・保守 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	コンピュータネットワークについて、学部レベルの学習を終えていること。				
学習到達目標	ネットワークを実現する基礎となる技術を理解すること。また、コンピュータネットワークの構築、ネットワークによりもたらされるサービスを利用したシステム構築について学ぶこと。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	ネットワークを実現する基礎となる技術を理解するできたか。また、コンピュータネットワークの構築、ネットワークによりもたらされるサービスを利用したシステム構築を行うことができるか。			
	成績評価 方法	おおよそ授業中の課題および議論80%、レポート20%の割合で総合評価。			
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。			
教材					
備考	必要に応じて各自のPCを用いる。				

科目名	社会シミュレーション特論				
クラス	[01クラス]	対象学年	1年,2年	開講学期	後期
				曜日・時限	火2
担当教員	高橋 広治			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	シミュレーションは将来の予測や計画の最適化など、様々な分野における意思決定の手段として重要な役割を果たしている。社会システムや社会プロセスのような複雑な系では、そのシステムの状態や挙動を支配している要因が何であるかを見抜き、モデル化する必要がある。この授業では、様々な社会的諸事象をシミュレートするための技法や考え方に関する教育研究を行う。				
授業方針	授業は議論を重視して対話的に行う。コンピュータを使った実習も行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 シミュレーションの概要 第2回 モデリング(1) 第3回 モデリング(2) 第4回 乱数 第5回 モンテカルロ法 第6回 待ち行列(1) 第7回 待ち行列(2) 第8回 連続型シミュレーション(1) 第9回 連続型シミュレーション(2) 第10回 生態系のシミュレーション 第11回 セルオートマトン 第12回 ライフゲーム 第13回 マルチエージェントモデル 第14回 学習と進化のモデル 第15回 レポート作成				
準備学習	(1)授業内容の復習をする。(30時間) (2)教員の指示に従って、次回の授業の準備をする。(30時間)				
学習到達目標	(1)社会シミュレーションの基礎を学ぶ。 (2)学んだことを実際の問題に応用する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)社会シミュレーションの基礎を学ぶことができたか。 (2)学んだことを実際の問題に応用することができたか。			
	成績評価 方法	授業参加50%+課題50%			
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。			
教材	適宜紹介する。				
備考					

科目名	情報社会特別演習II				
クラス	[01クラス]	対象学年	1年,2年	開講学期	後期
				曜日・時限	火5
担当教員	林 信義			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	企業の実体をとらえるために、「儲ける仕組み(ビジネスモデル)」に焦点をあてる。優れたビジネスモデルを事例として取り上げ、その特徴やパターンを理解し、企業を見る目を養っていく。				
授業方針	専門領域の確立とともに、調査研究能力、プレゼンテーション能力などの養成に取り組んでいく。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 ビジネスモデルとは 第 2回 ビジネスモデルの構成要素 第 3回 ビジネスモデルの類型化 第 4回 顧客セグメント(1) 第 5回 顧客セグメント(2) 第 6回 提供価値(1) 第 7回 提供価値(2) 第 8回 価格/収入構造(1) 第 9回 価格/収入構造(2) 第10回 ビジネスシステム(1) 第11回 ビジネスシステム(2) 第12回 事業レベルまとめ 第13回 コーポレートレベル(1) 第14回 コーポレートレベル(2) 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	講義開始時に前回の内容について確認を行う。復習により理解度を高めておくこと。				
学習到達目標	ビジネスモデルのパターンを理解し、活用できるようになる。 様々な企業や業界、職種に興味を持てるようになる。				
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	ビジネスモデルのパターンを理解し、説明できるか。 興味のわく企業や業界、職種を挙げて説明することができるか。			
	成績評価 方法	出席状況及び参加意欲(聴いて、考えて、伝える)50%、課題・レポート50%			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会研究科規程第15条に定める。			
教材	適宜、講義に関する資料を使用する。				
備考					

科目名	情シス創造プロジェクト特別演習I				
クラス	[01クラス]	対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	月4
担当教員	宮崎 洋			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	国内外の産業、特にグローバル化の進む製造業に注目し、技術管理、技術伝承、技術者のモチベーション向上策などの現状を分析し、今後のグローバル展開の要件を事業戦略、技術戦略の側面から検討する。				
授業方針	技術管理、技術戦略、事業戦略に関する既往研究、著作などを学習し、当該分野の関連研究の現状を理解する。また、注目する産業分野、企業などを抽出し、ケーススタディを行う。さらには技術者に対する実態調査を企画、設計、実施、分析まで行い、修士論文の基本データとして整理する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	院生の研究テーマおよび研究の進捗状況に合わせて、適宜課題に対する演習を行う。				
準備学習	関連分野の研究の現状の把握				
学習到達目標	技術戦略を題材とする修士論文作成のための情報の収集・整理。				
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	技術管理、技術戦略分野の研究の現状を体系的に理解すること。			
	成績評価 方法	平常授業への参加度、貢献度50%、レポート、発表50%で総合的に評価する			
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。			
教材	適宜、指定する。				
備考					

科目名	情シス創造プロジェクト特別演習I				
クラス	[02クラス]	対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	月3
担当教員	田中 克明			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	情報システムに関する研究プロジェクトとして、各自で計算機を利用した情報システムの調査と構築・評価を行い、成果を文章などにまとめ、発表する。本演習では、研究に関するディスカッションを中心に行う。				
授業方針	研究の進捗状況の報告とディスカッションを中心に行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 演習の進め方 第 2回 文献講読と議論(1) 第 3回 文献講読と議論(2) 第 4回 文献講読と議論(3) 第 5回 研究状況報告と議論(1) 第 6回 研究状況報告と議論(2) 第 7回 研究状況報告と議論(3) 第 8回 研究状況報告と議論(4) 第 9回 研究状況報告と議論(5) 第10回 研究状況報告と議論(6) 第11回 研究状況報告と議論(7) 第12回 研究状況報告と議論(8) 第13回 研究状況報告と議論(9) 第14回 研究発表 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	文献調査および情報システムの構築・評価を各自で自主的に進めること。				
学習到達目標	自主的に情報システムの構築・評価を行い、成果をまとめることができる。				
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	情報システムの構築に当たり、目的の設定、システムの構築、評価、成果の発表と議論を行うことができたか。			
	成績評価 方法	おおよそ研究の進め方の評価50%、研究成果50%で総合的に評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。			
教材					
備考					

科目名	情シス創造プロジェクト特別演習I				
クラス	[03クラス]	対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	金2
担当教員	高橋 広治			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	情報社会システムの構築についての実習は、具体的なプロジェクトを通して体験的に学習することが重要である。このため、プロジェクトとして実施するテーマを設定するために、現存する情報社会システムを調査・研究し、社会あるいは会社の要求と必要な技術の関係および開発プロセスを明らかにして、学生がテーマ設定を行い、テーマに沿った研究計画について発表と討議を行う。				
授業方針	本演習では、研究プロジェクトのテーマ設定と研究計画作成のための指導を行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>高度情報社会である現代においては、膨大な量のデータが時々刻々と生み出されている。そのようなデータを、人間にとって有用な真に生きた情報として活用するためには、各々の問題に合った適切なデータ処理を高速に行うことができる情報システムが必要不可欠である。そのようなシステムの構築を目指して、コンピュータを使った検索、分類、統計解析、データマイニングなどの様々なデータ処理の手法の開発や、それらの手法を応用した社会現象の分析などをテーマとした研究指導を行う。</p> <p>第1回 演習の進め方  第2回 研究テーマ策定  第3回 予備調査  第4回 研究計画の決定  第5回 研究報告と議論(1)  第6回 研究報告と議論(2)  第7回 研究報告と議論(3)  第8回 研究報告と議論(4)  第9回 研究報告と議論(5)  第10回 研究報告と議論(6)  第11回 研究報告と議論(7)  第12回 研究報告と議論(7)  第13回 研究発表準備  第14回 研究発表  第15回 レポート作成</p>				
準備学習	自主的に研究を進める。(60時間)				
学習到達目標	(1)自主的に研究を進めることができるようになる。 (2)自分の研究を深める。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)自主的に研究を進めることができるようになったか。 (2)自分の研究を深めることができたか。			
	成績評価 方法	授業参加50%+研究成果50%			
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。			
教材	適宜指示する。				
備考					

科目名	情シス創造プロジェクト特別演習I				
クラス	[04クラス]	対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	木2
担当教員	小寺 昇二			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	修士論文の基礎となる経営に関する理論、メソッドなどを学び、それをケース・スタディにより定着・展開していく。				
授業方針	経営に関する基本的な文献の調査・分析から始め、院生の希望によって採り上げる企業・業界についてのケース・スタディによって知識の定着・展開を図る。				
学習内容 (授業 スケジュール)	院生の研究テーマおよび研究の進捗状況に合わせて、適宜課題に対する演習を行う。				
準備学習	院生が希望する調査対象関連分野の研究状況の把握				
学習到達目標	経営に関する基本的な知識の吸収及び調査対象企業、業界についての基本的な情報収集と課題の発見				
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	経営に関する基本的な知識の吸収及び調査対象企業、業界についての基本的な情報収集と課題の発見			
	成績評価 方法	出席状況、レポート、発表を総合的に評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。			
教材	適宜、指定する。				
備考	毎回、必ずPCを持参すること				

科目名	情シス創造プロジェクト特別演習I				
クラス	[05クラス]	対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	金4
担当教員	林 信義			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	修士論文作成のための研究指導を行う。問題意識と経営理論との融合から仮説を構築し、調査研究を行い、論文を作成する。				
授業方針	ゼミ形式により、修士論文の作成報告と、それぞれの内容に関連するディスカッションを繰り返しながら進める。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 問題意識の明確化(1) 第 2回 問題意識の明確化(2) 第 3回 問題意識の明確化(3) 第 4回 問題意識の明確化(4) 第 5回 先行調査の研究(1) 第 6回 先行調査の研究(2) 第 7回 先行調査の研究(3) 第 8回 先行調査の研究(4) 第 9回 先行調査の研究(5) 第10回 先行調査の研究(6) 第11回 一次報告(1) 第12回 一次報告(2) 第13回 一次報告(3) 第14回 一次報告(4) 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	文献の探索、調査研究、執筆活動等は各自授業時間外に行うこと。				
学習到達目標	論文作成に必要な一連のステップを理解できるようになる。 仮説の構築、検証を行うことで論理的な考え方ができるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	論文作成ステップを理解し、説明できるか。 論文作成の方法論、技法を学び、実践できるか。			
	成績評価 方法	発表資料の内容により評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会研究科規程第15条に定める。			
教材	必要な資料などは随時指示する。				
備考					

科目名	情シス創造プロジェクト特別演習II			
クラス	[01クラス]	対象学年	1年	開講学期 後期
				曜日・時限 月5
担当教員	宮崎 洋			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	国内外の産業、特にグローバル化の進む製造業に注目し、技術管理、技術伝承、技術者のモチベーション向上策などの現状を分析し、今後のグローバル展開の要件を事業戦略、技術戦略の側面から検討する。			
授業方針	技術管理、技術戦略、事業戦略に関する既往研究、著作などを学習し、当該分野の関連研究の現状を理解する。また、注目する産業分野、企業などを抽出し、ケーススタディを行う。さらには技術者に対する実態調査を企画、設計、実施、分析まで行い、修士論文の基本データとして整理する。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回～第5回 実態調査の設計 PHASEⅡ:分析モデルの設定 第6回～第10回 実態調査の設計 PHASEⅢ:調査票の設計 第11回～第15回 実態調査の設計 PHASEⅣ:調査対象の設定			
準備学習	関連分野の研究の現状の把握			
学習到達目標	技術戦略を題材とする修士論文作成のための情報の収集・整理。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	技術管理、技術戦略分野の研究の現状を体系的に理解すること。		
	成績評価 方法	平常授業への参加度、貢献度50%、レポートおよび発表50%		
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。		
教材	適宜指定する。			
備考				

科目名	情シス創造プロジェクト特別演習II				
クラス	[02クラス]	対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	火4
担当教員	田中 克明			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	情報システムに関する研究プロジェクトとして、各自で計算機を利用した情報システムの調査と構築・評価を行い、成果を文章などにまとめ、発表する。本演習では、研究に関するディスカッションを中心に行う。				
授業方針	研究の進捗状況の報告とディスカッションを中心に行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 演習の進め方 第 2回 文献講読と議論(1) 第 3回 文献講読と議論(2) 第 4回 文献講読と議論(3) 第 5回 研究状況報告と議論(1) 第 6回 研究状況報告と議論(2) 第 7回 研究状況報告と議論(3) 第 8回 研究状況報告と議論(4) 第 9回 研究状況報告と議論(5) 第10回 研究状況報告と議論(6) 第11回 研究状況報告と議論(7) 第12回 研究状況報告と議論(8) 第13回 研究状況報告と議論(9) 第14回 研究発表 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	文献調査および情報システムの構築・評価を各自で自主的に進めること。				
学習到達目標	自主的に情報システムの構築・評価を行い、成果をまとめることができる。				
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	情報システムの構築に当たり、目的の設定、システムの構築、評価、成果の発表と議論を行うことができたか。			
	成績評価 方法	おおよそ研究の進め方の評価50%、研究成果50%で総合的に評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。			
教材					
備考					

科目名	情シス創造プロジェクト特別演習II			
クラス	[03クラス]	対象学年	1年	開講学期 後期
				曜日・時限 月2
担当教員	高橋 広治			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	情報社会システムの構築についての実習は、具体的なプロジェクトを通して体験的に学習することが重要である。このため、プロジェクトとして実施するテーマを設定するために、現存する情報社会システムを調査・研究し、社会あるいは会社の要求と必要な技術の関係および開発プロセスを明らかにして、学生がテーマ設定を行い、テーマに沿った研究計画について発表と討議を行う。			
授業方針	本演習では、研究プロジェクトのテーマ設定と研究計画作成のための指導を行う。			
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>高度情報社会である現代においては、膨大な量のデータが時々刻々と生み出されている。そのようなデータを、人間にとって有用な真に生きた情報として活用するためには、各々の問題に合った適切なデータ処理を高速に行うことができる情報システムが必要不可欠である。そのようなシステムの構築を目指して、コンピュータを使った検索、分類、統計解析、データマイニングなどの様々なデータ処理の手法の開発や、それらの手法を応用した社会現象の分析などをテーマとした研究指導を行う。</p> <p>第1回 演習の進め方  第2回 研究テーマ策定  第3回 予備調査  第4回 研究計画の決定  第5回 研究報告と議論(1)  第6回 研究報告と議論(2)  第7回 研究報告と議論(3)  第8回 研究報告と議論(4)  第9回 研究報告と議論(5)  第10回 研究報告と議論(6)  第11回 研究報告と議論(7)  第12回 研究報告と議論(8)  第13回 研究発表準備  第14回 研究発表  第15回 レポート作成</p>			
準備学習	自主的に研究を進める。(60時間)			
学習到達目標	(1)自主的に研究を進めることができるようになる。 (2)自分の研究を深める。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)自主的に研究を進めることができるようになったか。 (2)自分の研究を深めることができたか。		
	成績評価 方法	授業参加50%+研究成果50%		
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。		
教材	適宜指示する。			
備考				

科目名	情シス創造プロジェクト特別演習II				
クラス	[04クラス]	対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	火2
担当教員	小寺 昇二			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	修士論文のテーマについて研究を進め、情報を収集しながら課題を整理していく。				
授業方針	修士論文のテーマに関連した文献収集、研究、ケース・スタディなどを積み上げることによって、課題の整理、展開を図る。				
学習内容 (授業 スケジュール)	院生の研究テーマおよび研究の進捗状況に合わせて、適宜課題に対する演習を行う。				
準備学習	情シス創造プロジェクト特別演習IIについての確認				
学習到達目標	経営に関する基本的な知識の吸収及び調査対象企業、業界についての基本的な情報収集と課題の発見				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	経営に関する基本的な知識の吸収及び調査対象企業、業界についての基本的な情報収集と課題の発見			
	成績評価 方法	出席状況、レポート、発表を総合的に評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。			
教材	適宜、指定する。				
備考	毎回、必ずPCを持参すること				

科目名	情シス創造プロジェクト特別演習II			
クラス	[05クラス]	対象学年	1年	開講学期 後期
				曜日・時限 金4
担当教員	林 信義			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	修士論文作成のための研究指導を行う。問題意識と経営理論との融合から仮説を構築し、調査研究を行い、論文を作成する。			
授業方針	ゼミ形式により、修士論文の作成報告と、それぞれの内容に関連するディスカッションを繰り返しながら進める。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 仮説の構築(1) 第 2回 仮説の構築(2) 第 3回 仮説の構築(3) 第 4回 仮説の構築(4) 第 5回 仮説の構築(5) 第 6回 調査方法・研究方法の検討(1) 第 7回 調査方法・研究方法の検討(2) 第 8回 調査方法・研究方法の検討(3) 第 9回 調査方法・研究方法の検討(4) 第10回 調査方法・研究方法の検討(5) 第11回 二次報告 (1) 第12回 二次報告 (2) 第13回 二次報告 (3) 第14回 二次報告 (4) 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	文献の探索、調査研究、執筆活動等は各自授業時間外に行うこと。			
学習到達目標	論文作成に必要な一連のステップを理解できるようになる。 仮説の構築、検証を行うことで論理的な考え方ができるようになる。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	論文作成ステップを理解し、説明できるか。 論文作成の方法論、技法を学び、実践できるか。		
	成績評価 方法	発表資料の内容により評価する。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会研究科規程第15条に定める。		
教材	必要な資料などは随時指示する。			
備考				

科目名	情シス創造プロジェクト特別演習III				
クラス	[01クラス]	対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	月5
担当教員	宮崎 洋			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	国内外の産業、特にグローバル化の進む製造業に注目し、技術管理、技術伝承、技術者のモチベーション向上策などの現状を分析し、今後のグローバル展開の要件を事業戦略、技術戦略の側面から検討する。				
授業方針	技術管理、技術戦略、事業戦略に関する既往研究、著作などを学習し、当該分野の関連研究の現状を理解する。また、注目する産業分野、企業などを抽出し、ケーススタディを行う。さらには技術者に対する実態調査を企画、設計、実施、分析まで行い、修士論文の基本データとして整理する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回～第5回 実態調査の実施 海外企業における実態調査 第6回～第10回 実態調査の分析 調査結果の集計(単純集計・クロス分析) 第11回～第15回 実態調査の分析 統計解析				
準備学習	関連分野の研究の現状の把握				
学習到達目標	技術戦略を題材とする修士論文作成のための情報の収集・整理。				
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	技術管理、技術戦略分野の研究の現状を体系的に理解すること。			
	成績評価 方法	平常授業への参加度、貢献度50%、レポートおよび発表50%			
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。			
教材	適宜指定する。				
備考					

科目名	情シス創造プロジェクト特別演習III				
クラス	[02クラス]	対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	月4
担当教員	田中 克明			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	情報システムに関する研究プロジェクトとして、各自で計算機を利用した情報システムの調査と構築・評価を行い、成果を文章などにまとめ、発表する。本演習では、研究に関するディスカッションを中心に行う。				
授業方針	研究の進捗状況の報告とディスカッションを中心に行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 演習の進め方 第 2回 文献講読と議論(1) 第 3回 文献講読と議論(2) 第 4回 文献講読と議論(3) 第 5回 研究状況報告と議論(1) 第 6回 研究状況報告と議論(2) 第 7回 研究状況報告と議論(3) 第 8回 研究状況報告と議論(4) 第 9回 研究状況報告と議論(5) 第10回 研究状況報告と議論(6) 第11回 研究状況報告と議論(7) 第12回 研究状況報告と議論(8) 第13回 研究状況報告と議論(9) 第14回 研究発表 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	文献調査および情報システムの構築・評価を各自で自主的に進めること。				
学習到達目標	自主的に情報システムの構築・評価を行い、成果をまとめることができる。				
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	情報システムの構築に当たり、目的の設定、システムの構築、評価、成果の発表と議論を行うことができたか。			
	成績評価 方法	おおよそ研究の進め方の評価50%、研究成果50%で総合的に評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。			
教材					
備考					

科目名	情シス創造プロジェクト特別演習III				
クラス	[03クラス]	対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	月2
担当教員	高橋 広治			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	学生が、設定したテーマと関連が深い情報社会システムの機能、構造、および使われている技術、開発のプロセスを調査・研究する。これにより、要求と機能・構造の関係、また、要求がシステムに具体化されていく関連を明らかにする。その結果に基づいた様々な可能性のあるソリューションについて検討し、具体的なプロジェクトにおいて実施して、その成果について発表と討議を行う。				
授業方針	本演習では、テーマと関連する社会システムの調査研究によって、プロジェクトのシステム化を実現するための指導を行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>高度情報社会である現代においては、膨大な量のデータが時々刻々と生み出されている。そのようなデータを、人間にとって有用な真に生きた情報として活用するためには、各々の問題に合った適切なデータ処理を高速に行うことができる情報システムが必要不可欠である。そのようなシステムの構築を目指して、コンピュータを使った検索、分類、統計解析、データマイニングなどの様々なデータ処理の手法の開発や、それらの手法を応用した社会現象の分析などをテーマとした研究指導を行う。</p> <p>第1回 演習の進め方  第2回 研究テーマ策定  第3回 予備調査  第4回 研究計画の決定  第5回 研究報告と議論(1)  第6回 研究報告と議論(2)  第7回 研究報告と議論(3)  第8回 研究報告と議論(4)  第9回 研究報告と議論(5)  第10回 研究報告と議論(6)  第11回 研究報告と議論(7)  第12回 研究報告と議論(8)  第13回 研究発表準備  第14回 研究発表  第15回 レポート作成</p>				
準備学習	自主的に研究を進める。(60時間)				
学習到達目標	(1)自主的に研究を進めることができるようになる。 (2)自分の研究を深める。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)自主的に研究を進めることができるようになったか。 (2)自分の研究を深めることができたか。			
	成績評価 方法	授業参加50%+研究成果50%			
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。			
教材	適宜指示する。				
備考					

科目名	情シス創造プロジェクト特別演習III				
クラス	[04クラス]	対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	水3
担当教員	小寺 昇二			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	修士論文の研究テーマについて、多面的に研究を進める。				
授業方針	修士論文の研究テーマについて研究を進め、執筆を進めていく。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回～第5回 修士論文骨子(仮)の決定 第6回～第10回 必要な調査研究計画の策定・実施及び執筆 第11回～第15回 修士論文初稿の完成				
準備学習	情シス創造プロジェクト特別演習II内容の確認				
学習到達目標	修士論文初稿の完成、及びその相応の基準達成				
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	修士論文初稿の完成、及びその相応の基準達成			
	成績評価 方法	修士論文初稿の内容および発表100%			
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。			
教材	適宜指定する。				
備考	毎回、PCを必ず持参すること				

科目名	情シス創造プロジェクト特別演習III				
クラス	[05クラス]	対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	金5
担当教員	林 信義			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	修士論文作成のための研究指導を行う。問題意識と経営理論との融合から仮説を構築し、調査研究を行い、論文を作成する。				
授業方針	ゼミ形式により、修士論文の作成報告と、それぞれの内容に関連するディスカッションを繰り返しながら進める。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 調査・研究の遂行(1) 第 2回 調査・研究の遂行(2) 第 3回 調査・研究の遂行(3) 第 4回 調査・研究の遂行(4) 第 5回 調査結果の分析(1) 第 6回 調査結果の分析(2) 第 7回 調査結果の分析(3) 第 8回 調査結果の分析(4) 第 9回 調査結果の分析(5) 第10回 調査結果の分析(6) 第11回 三次報告 (1) 第12回 三次報告 (2) 第13回 三次報告 (3) 第14回 三次報告 (4) 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	文献の探索、調査研究、執筆活動等は各自授業時間外に行うこと。				
学習到達目標	論文作成に必要な一連のステップを理解できるようになる。 仮説の構築、検証を行うことで論理的な考え方ができるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	論文作成ステップを理解し、説明できるか。 論文作成の方法論、技法を学び、実践できるか。			
	成績評価 方法	発表資料の内容により評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学人間社会研究科規程第15条に定める。			
教材	必要な資料などは随時指示する。				
備考					

科目名	情シス創造プロジェクト特別演習Ⅳ				
クラス	[01クラス]	対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	火5
担当教員	宮崎 洋	単位区分	◎(必修)		
		単位数	2		
概要 (目的・内容)	国内外の産業、特にグローバル化の進む製造業に注目し、技術管理、技術伝承、技術者のモチベーション向上策などの現状を分析し、今後のグローバル展開の要件を事業戦略、技術戦略の側面から検討する。				
授業方針	文献調査や技術者に対する実態調査を通して得られた情報と分析結果をもとに修士論文としてまとめる。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回～第3回 調査結果の総合分析 仮説の検証と追加調査 第6回～第10回 調査結果のとりまとめ 第11回～第15回 論文の完成				
準備学習	これまでに収集した情報の体系的な整理				
学習到達目標	設定テーマに関する総合的な理解とに基づいた戦略理解と今後の方向性に対する提言				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	修士論文の完成			
	成績評価 方法	修士論文80%、発表20%			
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。			
教材	適宜指定する				
備考					

科目名	情シス創造プロジェクト特別演習Ⅳ				
クラス	[02クラス]	対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	火5
担当教員	田中 克明			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	情報システムに関する研究プロジェクトとして、各自で計算機を利用した情報システムの調査と構築・評価を行い、成果を文章などにまとめ、発表するとともに、修士論文を作成する。本演習では、研究に関するディスカッションを中心に行う。				
授業方針	研究の進捗状況の報告とディスカッションを中心に行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 演習の進め方 第 2回 文献講読と議論(1) 第 3回 文献講読と議論(2) 第 4回 文献講読と議論(3) 第 5回 研究状況報告と議論(1) 第 6回 研究状況報告と議論(2) 第 7回 研究状況報告と議論(3) 第 8回 研究状況報告と議論(4) 第 9回 研究状況報告と議論(5) 第10回 研究状況報告と議論(6) 第11回 研究状況報告と議論(7) 第12回 研究状況報告と議論(8) 第13回 研究状況報告と議論(9) 第14回 研究発表 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	文献調査および情報システムの構築・評価と修士論文の執筆を、各自で自主的に進めること。				
学習到達目標	自主的に情報システムの構築・評価を行い、成果を修士論文にまとめることができる。				
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	情報システムの構築に当たり、目的の設定、システムの構築、評価、成果の発表と議論を行うことができたか。また、修士論文の執筆を自主的に行い、完成させることができたか。			
	成績評価 方法	おおよそ研究の進め方の評価50%、研究成果50%で総合的に評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。			
教材					
備考					

科目名	情シス創造プロジェクト特別演習Ⅳ				
クラス	[03クラス]	対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	水5
担当教員	高橋 広治			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	学生が設定したテーマに関するソリューションについての計画やプロジェクトを実施していく過程での成果物をレビューし、その成果の報告(進捗・品質・機能・構造)について指導する。また、新規性や創造性などについても検討する。最終的に学生がプロジェクト全体をまとめて発表すると共に討議を行う。				
授業方針	本演習では、プロジェクトシステム化の過程における成果をレビューし、プロジェクトを完成させるための指導を行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>高度情報社会である現代においては、膨大な量のデータが時々刻々と生み出されている。そのようなデータを、人間にとって有用な真に生きた情報として活用するためには、各々の問題に合った適切なデータ処理を高速に行うことができる情報システムが必要不可欠である。そのようなシステムの構築を目指して、コンピュータを使った検索、分類、統計解析、データマイニングなどの様々なデータ処理の手法の開発や、それらの手法を応用した社会現象の分析などをテーマとした研究指導を行う。</p> <p>第1回 演習の進め方  第2回 研究テーマ策定  第3回 予備調査  第4回 研究計画の決定  第5回 研究報告と議論(1)  第6回 研究報告と議論(2)  第7回 研究報告と議論(3)  第8回 研究報告と議論(4)  第9回 研究報告と議論(5)  第10回 研究報告と議論(6)  第11回 研究報告と議論(7)  第12回 研究報告と議論(8)  第13回 研究発表準備  第14回 研究発表  第15回 レポート作成</p>				
準備学習	自主的に研究を進める。(60時間)				
学習到達目標	(1)自主的に研究を進めることができるようになる。 (2)自分の研究を深める。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	(1)自主的に研究を進めることができるようになったか。 (2)自分の研究を深めることができたか。			
	成績評価 方法	授業参加50%+研究成果50%			
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。			
教材	適宜指示する。				
備考					

科目名	情シス創造プロジェクト特別演習Ⅳ				
クラス	[04クラス]	対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	水2
担当教員	小寺 昇二			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	修士論文の研究テーマについて、多面的に研究を進め。完成させる。				
授業方針	前期に完成させた初稿をベースに研究を重ね、修士課程修了に相応しい論文を完成させる。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回～第5回 修士論文完成に向けての研究 第6回～第10回 執筆の進捗 第11回～第15回 修士論文の完成及び発表				
準備学習	情シス創造プロジェクト特別演習Ⅲ内容の確認				
学習到達目標	修士課程修了に相応しい修士論文の完成				
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	修士課程修了に相応しい修士論文の完成			
	成績評価 方法	修士論文の内容及び発表100%			
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。			
教材	適宜指定する。				
備考	毎回、PCを必ず持参すること				

科目名	情シス創造プロジェクト特別演習Ⅳ			
クラス	[05クラス]	対象学年	2年	開講学期 後期
				曜日・時限 金5
担当教員	林 信義			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	修士論文作成のための研究指導を行う。問題意識と経営理論との融合から仮説を構築し、調査研究を行い、論文を作成する。			
授業方針	ゼミ形式により、修士論文の作成報告と、それぞれの内容に関連するディスカッションを繰り返しながら進める。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 修士論文の作成(1) 第 2回 修士論文の作成(2) 第 3回 修士論文の作成(3) 第 4回 修士論文の作成(4) 第 5回 修士論文の検討・討議 (1) 第 6回 修士論文の検討・討議 (2) 第 7回 修士論文の検討・討議 (3) 第 8回 修士論文の検討・討議 (4) 第 9回 修士論文の最終確認・報告 (1) 第10回 修士論文の最終確認・報告 (2) 第11回 修士論文の最終確認・報告 (3) 第12回 修士論文の最終確認・報告 (4) 第13回 修士論文の最終確認・報告 (5) 第14回 修士論文の最終確認・報告 (6) 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	文献の探索、調査研究、執筆活動等は各自授業時間外に行うこと。			
学習到達目標	論文作成に必要な一連のステップを理解できるようになる。 仮説の構築、検証を行うことで論理的な考え方ができるようになる。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	論文作成ステップを理解し、説明できるか。 論文作成の方法論、技法を学び、実践できるか。		
	成績評価 方法	修士論文の完成度により評価する。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会研究科規程第15条に定める。		
教材	必要な資料などは随時指示する。			
備考				

科目名	イメージ創造特論				
クラス	[01クラス]	対象学年	1年,2年	開講学期	前期
				曜日・時限	水4
担当教員	檀上 誠			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	クリエイティブな創作活動においては、コンセプトを立て、実行することが重要である。CG作品の制作においてもコンセプトの立案が重要となる。本講義では、企画・作品制作・プレゼンテーション・評価を通じ、作品制作における創造力の強化および客観的な評価能力を得ることを目的としている。				
授業方針	まず、コンセプト及びイメージ表現が人に対して果たす重要性を知り、CG技術を用いた情報の視覚化について事例研究を行う。次に、コンセプトメイキングの手法を学びつつ、オリジナル性を高める思考力を養い、コンセプトを立案する。そして、立案されたコンセプトに基づき、CG関連ツールを用いて、作品制作を行う。最後に、完成させた作品に対し評価を行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 学習内容およびスケジュールの説明 第2回 事例研究1)国内事例を学ぶ 第3回 事例研究2)国外事例を学ぶ 第4回 企画1)コンセプトメイキング法 第5回 企画2)オリジナルシンキング法 第6回 企画3)作品制作にむけたコンセプトの立案 第7回 作品制作1)CGツールの選択・制作活動 第8回 作品制作2)制作活動 第9回 中間発表・プレゼンテーション 第10回 作品制作3)制作活動・修正点の確認 第11回 作品制作4)制作活動・修正点の確認 第12回 作品制作5)制作活動・修正点の確認 第13回 作品制作6)作品発表及びプレゼンテーションの準備 第14回 作品発表・プレゼンテーション・作品評価 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	1)事前に事例研究を十分行うこと。(10時間) 2)コンセプトの立案方法の重要性を把握すること。(20時間) 3)CG関連ツールを選択し、最適な手法を学ぶこと。(30時間)				
学習到達目標	企画力・制作能力・プレゼンテーション能力・客観的な評価方法の修得				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	提出作品・プレゼンテーションを通じ、学習到達目標にある4項目を満たすこと			
	成績評価 方法	提出作品・プレゼンテーション(80%)、授業参加度(20%)			
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第14条に定める。			
教材	教科書:制作物に適した書籍を紹介する。 参考書:その都度紹介する。				
備考					

科目名	デジタル音響表現特論				
クラス	[01クラス]	対象学年	1年,2年	開講学期	前期
				曜日・時限	月4
担当教員	中川 善裕			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	世の中に存在する様々な現実音, それらを電氣的、電子的に加工した音, コンピュータ上で生成できる合成音など, 現在、我々は様々な音を扱う事ができる。それらの音たちを細胞のように時間軸上に構成し、既成の楽器による音楽とは異なる音楽をつくる可能性を探りたい。ここではいわゆる合成音による「電子音楽」と具体音を用いる「ミュージックコンクレート」を総括した「電子音響音楽」の創作を、コンピュータを用いた可能性という観点から教育研究する。				
授業方針	適宜、基礎資料を配布し、ディスカッションを行いながら、課題となる作品を制作してゆくことになる				
学習内容 (授業 スケジュール)	院生の研究テーマおよび研究の進捗に合わせ、適宜課題にたいする演習を行う。 第 1回 イン트로ダクション 第 2回 基礎テキスト輪読と音源試聴(Ⅰ) 第 3回 基礎テキスト輪読と音源試聴(Ⅱ) 第 4回 基礎実習(Ⅰ) 第 5回 基礎実習(Ⅱ) 第 6回 基礎実習(Ⅲ) 第 7回 基礎実習(Ⅳ) 第 8回 基礎実習(Ⅴ) 第 9回 課題実習(Ⅰ) 第10回 課題実習(Ⅱ) 第11回 課題実習(Ⅲ) 第12回 課題実習(Ⅳ) 第13回 課題実習(Ⅴ) 第14回 課題実習(Ⅵ) 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	初回授業で指示する参考図書等をよみ、専門用語の意味などを理解しておく事				
学習到達目標	授業スケジュールの各項目で行われたことを理解する事				
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	学習した制作上の技術を用いて、自分の個性を表現することができたか。			
	成績評価 方法	学期末の提出作品 80%,平常点 20%			
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。			
教材	教員の指定による。				
備考					

科目名	マルチ・メディア情報処理特論			
クラス	[01クラス]	対象学年	1年,2年	開講学期 後期
				曜日・時限 月2
担当教員	森沢 幸博			単位区分 _(選択)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	本講義は,多様化するメディアと人間の関係性について理解を深めることを目的としている。授業では,インターネットを中心とした情報メディアを活用したサービス事例を紹介するとともに,メディアを通じたコミュニケーション手法について研究、考察を行う。			
授業方針	研究テーマに関係する国内外のメディア・デザイン専門書,論文の輪読を行い,メディア研究分野の課題について学ぶ。インターネットを中心とした情報技術と社会環境の変化に関する小レポート(全10回)を行い,最終課題は,メディア技術を活用したサービス事例についてレポートをまとめる。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 情報化社会におけるメディアの発展 第 2回 マルチメディアと情報化社会 第 3回 情報デザインにおけるUI設計 第 4回 身体感覚の拡張とデザイン生態学 第 5回 視覚表現とデジタルデザイン 第 6回 ソーシャルメディアとコミュニケーション理解 第 7回 中間課題報告 第 8回 インタラクティブメディアの進化 第 9回 脳科学と感覚メディア 第10回 マルチモーダルメディアと感情表現 第11回 AR, MR, VRメディアと情報技術 第12回 研究課題指導(1)(情報デザイン) 第13回 研究課題指導(2)(視覚文化 映像表現) 第14回 課題発表 成果報告、質疑応答 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	授業時に示すレポート課題について事前に調べ,専門用語の意味などについて理解する(10時間) 中間レポート課題,最終レポート課題作成(30時間) 指定した教科書の要点をまとめ,デジタルメディアに関する基礎知識について予習と復習をしておく(20時間)			
学習到達目標	デジタルメディアに関する知識と応用事例について理解し,専門的な説明ができるようになる事を目的とする。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	ICTの応用技術,情報メディアに対する基礎知識について理解し,応用事例や最新デジタル技術について説明できる。		
	成績評価 方法	課題研究テーマに対する中間レポート20% 最終レポート30% プレゼンによる研究成果発表(中間報告+最終発表)50%		
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。		
教材	教科書:授業内で指示する。 参考書:増補・改訂版「誰のためのデザイン?」D.A.ノーマン 新曜社 2015年			
備考	質問、連絡等はLive Campus, 学内メールにて対応			

科目名	メディア作曲法特論				
クラス	[01クラス]	対象学年	1年,2年	開講学期	後期
				曜日・時限	月4
担当教員	中川 善裕			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	コンピュータの発達や電子的な音響機器によって、音楽制作者を取り巻く環境も大きく変化してきている。また音楽を発信するメディアも、近年、多様な変化を見せている。ここではそれらの新しいツールやメディアによって音楽がどのように変貌してゆくのかをふまえた上で、新しいメディアと創作という観点から教育研究する。				
授業方針	適宜、基礎資料を配布し、ディスカッションを行いながら、課題となる作品を制作してゆくことになる				
学習内容 (授業 スケジュール)	院生の研究テーマおよび研究の進捗に合わせ、適宜課題にたいする演習を行う。 第 1回 イン트로ダクション 第 2回 基礎テキスト輪読と音源試聴(Ⅰ) 第 3回 基礎テキスト輪読と音源試聴(Ⅱ) 第 4回 基礎実習(Ⅰ) 第 5回 基礎実習(Ⅱ) 第 6回 基礎実習(Ⅲ) 第 7回 基礎実習(Ⅳ) 第 8回 基礎実習(Ⅴ) 第 9回 課題実習(Ⅰ) 第10回 課題実習(Ⅱ) 第11回 課題実習(Ⅲ) 第12回 課題実習(Ⅳ) 第13回 課題実習(Ⅴ) 第14回 課題実習(Ⅵ) 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	初回授業で指示する参考図書等をよみ、専門用語の意味などを理解しておく事				
学習到達目標	授業スケジュールの各項目で行われたことを理解する事				
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	学習した制作技術を用いて自分の個性を表現できたか。			
	成績評価 方法	期末提出作品80%、平常点20%			
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。			
教材	教員の指定による。				
備考					

科目名	映像情報特論				
クラス	[01クラス]	対象学年	1年,2年	開講学期	後期
				曜日・時限	水3
担当教員	檀上 誠			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	映像制作のワークフローである、プリプロダクション・プロダクション・ポストプロダクションについて学習した後、個人作品制作に反映させることで知識・技能の修得を確実にさせることを目的としている。				
授業方針	優れた映像作品を創出するには、プロダクションワークに係わる各要素を熟知し、的確に実施することが重要である。そこで、映像制作における制作プロセス、演出方法、制作技術、スケジュール管理といったワークフローについて、事例研究を通して必要とされる最新知識を習得する。ワークフローを踏まえつつ、実際に作品制作を行い知識の修得を確実なものとする。				
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>学習内容(授業スケジュール)</p> <p>第1回 映像制作におけるワークフローの概要</p> <p>第2回 映画制作におけるワークフローについて</p> <p>第3回 アニメ制作におけるワークフローについて</p> <p>第4回 ゲーム制作におけるワークフローについて</p> <p>第5回 ミュージック制作におけるワークフローについて</p> <p>第6回 CM制作におけるワークフローについて</p> <p>第7回 個人作品の課題設定について</p> <p>第8回 プリプロダクション(企画、シナリオ、絵コンテを中心とした設計段階)</p> <p>第9回 プリプロダクションにおける進捗状況の確認、修正</p> <p>第10回 プロダクション(制作設計、素材準備、環境の選定を中心とした準備段階)</p> <p>第11回 プロダクションにおける進捗状況の確認、修正</p> <p>第12回 ポストプロダクション(合成、編集、オーサリングを中心とした活用段階)</p> <p>第13回 ポストプロダクション進捗状況の確認、修正</p> <p>第14回 作品発表・プレゼンテーション</p> <p>第15回 まとめ及び試験</p>				
準備学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回～第6回までに関連する映像作品を鑑賞し、分析すること。(30時間)</li> <li>・作品制作に関連する情報収集。(30時間)</li> </ul>				
学習到達目標	プロダクションワークについて理解を深め、実制作において知識と技能の重要性について把握すること				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	<p>1) 映像制作のワークフローへの理解および提出作品における達成度(プリプロダクション・プロダクション・ポストプロダクションの3段階を評価基準にする)</p> <p>2) 提出作品に関するクオリティおよびプレゼンテーション内容</p>			
	成績評価 方法	提出作品及びプレゼンテーション80%、課題提出20%			
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第14条に定める。			
教材	<p>教科書:特に指定しない。</p> <p>参考書:適宜紹介する。</p>				
備考					

科目名	情報表現特別演習I			
クラス	[01クラス]	対象学年	1年	開講学期 前期
				曜日・時限 水2
担当教員	森沢 幸博			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	本講義は,魅力あるUI/UXデザインを実現するために必要となる専門知識を俯瞰して理解することを目標とする。 また,授業を通じて,UIデザイン分野に応じた課題解決,アプローチ法を身につけることを目標とする。			
授業方針	デジタル技術を利用したコンテンツ制作に関する専門知識の修得を目指す。 感覚の拡張や複合現実感の創造,次世代のデジタルコンテンツ,サービスの可能性について考察するため,授業内で関連する専門資料を指定する。 また,毎授業時に研究分野に関する小レポートを指示する。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 研究テーマ概要説明 第 2回 研究テーマ選考 ディスカッション 第 3回 研究作品制作準備 先行事例研究 第 4回 研究作品制作(1) ハードウェアモデリング基礎 第 5回 研究作品制作(2) ハードウェアモデリング応用 第 6回 3DCG制作実習(1) マテリアル表現 第 7回 3DCG制作実習(2) 光源設定・陰影処理 第 8回 中間報告(プレゼンテーション形式) 第 9回 AR、MR技術の応用事例研究 第10回 身体感覚とデジタル技術 第11回 研究課題制作(1)(メディア・デザイン) 第12回 研究課題制作(2)(Webメディア) 第13回 研究課題制作(3)(映像メディア) 第14回 研究成果発表 進捗報告 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	授業時に示すレポート課題について事前に調べ,専門用語の意味などについて理解する(10時間) 中間研究課題,最終レポート課題作成(30時間) 指定した映像作品やコンテンツについてまとめ,最新デジタル技術の動向について予習と復習をしておく(20時間)			
学習到達目標	修士制作発表に向けた課題制作,クリエイティブな活動に必要な知識と技術の習得を目指す。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	研究分野に関する専門知識と事例について理解し,自身の考えをもとに説明できる。 最新デジタル技術を利用したコミュニケーションサービスについて理解し,専門知識について説明することができる。		
	成績評価 方法	研究テーマに対する中間レポート20% 最終レポート30% 研究成果発表(中間報告+最終発表)50%		
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。		
教材	教科書:「デザイン人間工学」山岡俊樹 共立出版 2014年 参考書:授業内で適時指定する。			
備考	主体的な学習をこころがけ,自身で作品制作に必要な知識やスキルの習得を積極的に行ってください。			

科目名	情報表現特別演習I			
クラス	[02クラス]	対象学年	1年	開講学期 前期
				曜日・時限 月3
担当教員	檀上 誠			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	映像や音響などを用いたデジタル・コンテンツ制作について研究しつつ、コンピュータグラフィックスを用いた実制作を中心に作品制作を行う。まず、実制作に向け最新のデジタル・コンテンツについて先行事例の調査を行いながらテーマを決定していく。テーマ決定後、必要とされる知識、技能、技術を明確化した上で、制作スケジュールを立て、実制作に取り組む。テーマ実現に向けたシステム構築、作品制作を行うと共に、プレゼンテーション及び討議を重ねていく。			
授業方針	昨今、CGを用いたデザイン能力は産業界において多岐に渡り活用されている。CG作品を制作する上で必要とされる知識・技術を習得することだけに傾倒すると他者との差別化が困難となるため、結果、デザイナーとしてのオリジナリティを築き上げることが出来なくなる。そこでCG制作のみに傾倒するのではなく、表現力を養うための指導も行う。			
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>&lt;学習内容&gt; 院生の研究テーマおよび研究の進捗に合わせ、適宜課題を明確化しつつ演習を行う。</p> <p>第 1回 研究テーマ及び前期制作スケジュールの作成 第 2回 先行事例の研究及びディスカッション 第 3回 先行事例の研究及びディスカッション、テーマ決定 第 4回 基礎演習(Ⅰ)モデリング 第 5回 基礎演習(Ⅱ)マテリアル、テクスチャ 第 6回 基礎演習(Ⅲ)アニメーション 第 7回 基礎演習(Ⅳ)レンダリング 第 8回 基礎演習(Ⅴ)、中間チェック及びプレゼンテーション 第 9回 個人作品制作(Ⅰ)モデリング 第10回 個人作品制作(Ⅱ)マテリアル、テクスチャ 第11回 個人作品制作(Ⅲ)アニメーション 第12回 個人作品制作(Ⅳ)レンダリング 第13回 個人作品制作(Ⅴ)映像編集 第14回 作品発表及びプレゼンテーション(Ⅵ) 第15回 まとめおよび試験</p>			
準備学習	1. 作品の世界観を構築するための資料収集(30時間) 2. 作品制作に求められる知識・技能について事前に学習しておくこと(30時間)			
学習到達目標	授業スケジュールの各項目で行われたことを理解する事			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	作品における表現力、制作技術の習得、プレゼンテーションの内容		
	成績評価 方法	提出作品(70%)、プレゼンテーションに関する評価(30%)		
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第14条に定める。		
教材	担当教員の指定による			
備考				

科目名	情報表現特別演習I			
クラス	[03クラス]	対象学年	1年	開講学期 前期
				曜日・時限 金1
担当教員	中川 善裕			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	映像や音響などのマルチメディアによるデジタル・コンテンツ制作についてのテーマ設定を行うために、最新のデジタル・コンテンツについて、制作意図、制作手法を調査・研究して、テーマに対するアプローチ方法を習得して、テーマに基づいたシステム構築、作品制作を行うと共に、その成果について報告書としてまとめ、発表と討議を行う。			
授業方針	<p>◆ 中川 善裕</p> <p>近年、発達目覚ましいコンピュータ等のデジタル機器の登場によって、音楽製作の様相は著しく変化してきた。五線譜と鉛筆と楽器と演奏者、そして録音スタジオが一つのノートパソコンに収まるようになった時、単なる効率性の追求という意味合いだけでない何らかの音楽的な内容の変化の可能性をも秘めているはずである。それらの可能性に目を向けながら、新しい時代の音楽表現法の総合的研究を行う。本演習では、デジタル・コンテンツ制作のテーマ設定と研究計画作成のための指導を行う。</p>			
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>院生の研究テーマおよび研究の進捗に合わせ、適宜課題にたいする演習を行う。</p> <p>第 1回 イン트로ダクション  第 2回 基礎テキスト輪読と音源試聴(I)  第 3回 基礎テキスト輪読と音源試聴(II)  第 4回 基礎実習(I)  第 5回 基礎実習(II)  第 6回 基礎実習(III)  第 7回 基礎実習(IV)  第 8回 基礎実習(V)  第 9回 課題実習(I)  第 10回 課題実習(II)  第 11回 課題実習(III)  第 12回 課題実習(IV)  第 13回 課題実習(V)  第 14回 課題実習(VI)  第 15回 まとめ及び試験</p>			
準備学習	初回授業で指示する参考図書等をよみ、専門用語の意味などを理解しておく事			
学習到達目標	授業スケジュールの各項目で行われたことを理解する事			
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	学習した制作上の技術を用いて、自分の個性を表現することができたか。		
	成績評価 方法	評価方法 学期末の提出作品 80%,平常点 20%		
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。		
教材	担当教員の指定による。			
備考				

科目名	情報表現特別演習II			
クラス	[01クラス]	対象学年	1年	開講学期 後期
				曜日・時限 水3
担当教員	森沢 幸博			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	人間工学に基づくUI/UX,インタフェースデザインに関する知識を身につけることを目標とする。 また,授業を通じてサービス提案,UX構築に必要な課題解決能力を身につける。			
授業方針	デザイン人間工学に関する知識の修得を目指す。 毎授業時に研究分野に関する小レポートを指示する。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 研究テーマを設定し, 研究の進捗状況に合わせて具体的な作品作成を行う。 第 2回 研究テーマ選考 論文輪講 第 3回 デザイン人間工学とプロダクトデザイン 第 4回 デザイン研究(1) デザインの意図性 第 5回 デザイン研究(2) ソーシャルデザイン 第 6回 デザイン研究(3) 感性デザイン 第 7回 デザイン研究(4) 安全デザイン 第 8回 中間研究報告 プレゼンテーション形式 第 9回 デザイン研究(5) サービスデザイン 第10回 研究課題指導(1) UX評価 可視化 第11回 研究課題指導(2) ユーザータスク分析 第12回 研究課題指導(3) コンジョイント分析 第13回 研究課題報告 制作指導 第14回 研究課題発表 最終講評 質疑応答 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	授業時に示すレポート課題について事前に調べ,専門用語の意味などについて理解する(10時間) 中間研究課題,最終レポート課題作成(30時間) 指定した映像作品やコンテンツについてまとめ,最新デジタル技術の動向について予習と復習をしておく(20時間)			
学習到達目標	修士制作発表に向けた課題制作能力,研究活動に必要な知識と技術の習得を目指す。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	研究分野に関する専門知識と事例について理解し,自身の考えをもとに説明できる。 最新デジタル技術を利用したコミュニケーションサービスについて理解し,専門知識について説明することができる。		
	成績評価 方法	研究テーマに対する中間レポート20% 最終レポート30% 研究成果発表(中間報告+最終発表)50%		
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。		
教材	教科書:「デザイン人間工学」山岡俊樹 共立出版 2014年 参考書:授業内で適時指定する。			
備考	主体的な学習を心がけ,自身で研究活動に必要な知識やスキルの習得を積極的に行ってください。			

科目名	情報表現特別演習II			
クラス	[02クラス]	対象学年	1年	開講学期 後期
				曜日・時限 月3
担当教員	檀上 誠			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	映像や音響などを用いたデジタル・コンテンツ制作について研究しつつ、本演習ではコンピュータグラフィックスを用いた実制作を中心に作品制作を行う。まず、前期に引き続き、学生が設定したテーマと関連のある先行事例及び作品について調査・分析を行いながら、研究及び作品制作を行っていく。また、プレゼンテーション及び討議も重ねていく。			
授業方針	昨今、CGを用いたデザイン能力は産業界において多岐に渡り活用されている。CG作品を制作する上で必要とされる知識・技術を習得することだけに傾倒すると他者との差別化が困難となるため、結果、デザイナーとしてのオリジナリティを築き上げることが出来なくなる。そこでCG制作のみに傾倒するのではなく、表現力を養うための指導も行う。また、社会生活を意識し制作過程におけるスピード感覚も養っていく。			
学習内容 (授業 スケジュール)	院生の研究テーマおよび研究の進捗に合わせ、適宜課題を明確化しつつ演習を行う。 第 1回 研究テーマ及び後期制作スケジュールの作成 第 2回 先行事例の研究及びディスカッション 第 3回 先行事例の研究及びディスカッション、テーマ決定 第 4回 基礎演習(I)モデリング 第 5回 基礎演習(II)マテリアル、テクスチャ 第 6回 基礎演習(III)アニメーション 第 7回 基礎演習(IV)レンダリング 第 8回 基礎演習(V)、中間チェック及びプレゼンテーション 第 9回 個人作品制作(I)モデリング 第10回 個人作品制作(II)マテリアル、テクスチャ 第11回 個人作品制作(III)アニメーション 第12回 個人作品制作(IV)レンダリング 第13回 個人作品制作(V)映像編集 第14回 作品発表及びプレゼンテーション 第15回 まとめおよび試験			
準備学習	1. 作品の世界観を構築するための資料収集(30時間) 2. 作品制作に求められる知識・技能について事前に学習しておくこと(30時間)			
学習到達目標	授業スケジュールの各項目で行われたことを理解する事			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	作品における表現力、制作技術の習得、プレゼンテーションの内容		
	成績評価 方法	提出作品(70%)、プレゼンテーションに関する評価(30%)		
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第14条に定める。		
教材	担当教員の指定による。			
備考				

科目名	情報表現特別演習II			
クラス	[03クラス]	対象学年	1年	開講学期 後期
				曜日・時限 金1
担当教員	中川 善裕			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	映像や音響などのマルチ・メディアによるデジタル・コンテンツ制作についての研究内容や作品内容を充実させるために、学生が設定したテーマと関連が深い研究成果や作品について、その制作の方向性や制作技法について調査・研究する。その結果に基づいて学生が設定したテーマに関する研究や作品制作を実施して、その成果について発表と討議を行う。			
授業方針	◆ 中川 善裕 近年、発達目覚ましいコンピュータ等のデジタル機器の登場によって、音楽製作の様相は著しく変化してきた。五線譜と鉛筆と楽器と演奏者、そして録音スタジオが一つのノートパソコンに収まるようになった時、単なる効率性の追求という意味合いだけでない何らかの音楽的な内容の変化の可能性をも秘めているはずである。それらの可能性に目を向けながら、新しい時代の音楽表現法の総合的研究を行う。本演習では、デジタル・コンテンツ制作のテーマ設定と研究計画作成のための指導を行う。			
学習内容 (授業 スケジュール)	院生の研究テーマおよび研究の進捗に合わせ、適宜課題にたいする演習を行う。 第 1回 イン트로ダクション 第 2回 基礎テキスト輪読と音源試聴(Ⅰ) 第 3回 基礎テキスト輪読と音源試聴(Ⅱ) 第 4回 基礎実習(Ⅰ) 第 5回 基礎実習(Ⅱ) 第 6回 基礎実習(Ⅲ) 第 7回 基礎実習(Ⅳ) 第 8回 基礎実習(Ⅴ) 第 9回 課題実習(Ⅰ) 第 10回 課題実習(Ⅱ) 第 11回 課題実習(Ⅲ) 第 12回 課題実習(Ⅳ) 第 13回 課題実習(Ⅴ) 第 14回 課題実習(Ⅵ) 第 15回 まとめ及び試験			
準備学習	初回授業で指示する参考図書等をよみ、専門用語の意味などを理解しておく事			
学習到達目標	授業スケジュールの各項目で行われたことを理解する事			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	学習した制作上の技術を用いて、自分の個性を表現することができたか。		
	成績評価 方法	学期末の提出作品 80%,平常点 20%		
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。		
教材	担当教員の指定による。			
備考				

科目名	情報表現特別演習III			
クラス	[01クラス]	対象学年	2年	開講学期 前期
				曜日・時限 水3
担当教員	森沢 幸博			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	人間工学に基づくUI/UX,インタフェースデザインに関する知識を身につけることを目標とする。 また,研究成果の新規性や創造性などについても検討し,最終的な研究成果を完成をまとめて発表する。			
授業方針	インターネットを利用したサービスデザインの特性を理解するため,難易度の高い技術を盛り込んだ研究制作を積極的に行う。学習理解の進度に応じて,より高度なUI/UXデザインについて指導を行う。毎授業時に小レポート課題の指示をする。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 研究活動報告 第 2回 研究調査(1) ユーザーリサーチ 第 3回 研究調査(2) ユーザビリティ評価 第 4回 研究作品準備(1) 構造化デザインコンセプト 第 5回 研究作品準備(2) ユニバーサルデザイン 第 6回 研究作品準備(3) メンタルモデル 第 7回 研究作品準備(4) プロトタイプ制作 第 8回 中間報告会(プレゼンテーション形式) 第 9回 研究課題指導(1) 情報コミュニケーションと次世代通信技術 第10回 研究課題指導(2) UIデザインプロセス 第11回 研究課題指導(1) 研究論文指導 第12回 研究課題指導(2) 研究論文報告 第13回 研究課題指導(3) 研究論文 第14回 研究成果発表、最終講評、質疑応答 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	授業時に示すレポート課題について事前に調べ,専門用語の意味などについて理解する(10時間) 中間研究課題,最終レポート課題作成(30時間) 指定した映像作品やコンテンツについてまとめ,最新デジタル技術の動向について予習と復習をしておく(20時間)			
学習到達目標	専門的なデザイン表現,デジタルコンテンツの制作手法を理解をして,オリジナル作品の制作ができるようになる。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	研究分野に関する専門知識と事例について理解し,自身の考えをもとに説明できる。 最新デジタル技術を利用したコミュニケーションサービスについて理解し,専門知識について説明することができる。		
	成績評価 方法	研究テーマに対する中間レポート20% 最終レポート30% 研究成果発表(中間報告+最終発表)50%		
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。		
教材	教科書:授業内で指示 Live Campusより教材資料を提供 参考書:研究課題の制作状況に応じて指定			
備考	主体的な学習を心がけ,自身で研究活動に必要な知識やスキルの習得を積極的に行ってください。			

科目名	情報表現特別演習III			
クラス	[02クラス]	対象学年	2年	開講学期 前期
				曜日・時限 水3
担当教員	檀上 誠			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	本演習では、卒業研究を念頭にデジタル・コンテンツについて調査研究を行いつつ、CGを用いた実制作活動を行う。まず、実制作に向け関連のある最新のデジタル・コンテンツについて先行事例の調査を行いながらテーマを決定していく。テーマ決定後、必要とされる知識、技能、技術を明確化した上で、制作スケジュールを立て、実制作に取り組む。また、テーマ実現に向けた作品制作を行うと共に討議を重ね、プレゼンテーションにて思考を体系化させる。			
授業方針	昨今、CGを用いたデザイン能力は産業界において多岐に渡り活用されている。CG作品を制作する上で必要とされる知識・技術を習得することだけに傾倒すると他者との差別化が困難となるため、結果、デザイナーとしてのオリジナリティを築き上げることが出来なくなる。そこでCG制作のみに傾倒するのではなく、表現力を養うための指導も行う。 また、研究や作品制作に対するスピード感覚を高めつつ、毎回行う討議や中間・最終プレゼンテーションを通じイメージのみならず文字を用いた思考の体系化を強化する。			
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>&lt;学習内容&gt; 院生の研究テーマおよび研究の進捗に合わせ、適宜課題を明確化しつつ演習を行う。</p> <p>第 1回 研究テーマ及び前期制作スケジュールの作成 第 2回 先行事例の研究及びディスカッション 第 3回 先行事例の研究及びディスカッション (卒業研究の方向性を決定し、必要とされる課題内容を明確化する) 第 4回 課題演習(Ⅰ)モデリング 第 5回 課題演習(Ⅱ)マテリアル、テクスチャ 第 6回 課題演習(Ⅲ)アニメーション 第 7回 課題演習(Ⅳ)レンダリング 第 8回 課題演習(Ⅴ)、中間チェック及びプレゼンテーション(卒業研究の内容を具体化させる) 第 9回 個人作品制作(Ⅰ)モデリング 第10回 個人作品制作(Ⅱ)マテリアル、テクスチャ 第11回 個人作品制作(Ⅲ)アニメーション 第12回 個人作品制作(Ⅳ)レンダリング 第13回 個人作品制作(Ⅴ)映像編集 第14回 作品発表及びプレゼンテーション 第15回 まとめおよび試験</p>			
準備学習	1. 作品の世界観を構築するための資料収集(30時間) 2. 作品制作に求められる知識・技能について事前に学習しておくこと(30時間)			
学習到達目標	授業スケジュールの各項目で行われたことを理解する事			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	作品における表現力、制作技術の習得、口頭発表の内容		
	成績評価 方法	提出作品(80%)、口頭発表の内容(20%)		
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第14条に定める。		
教材	担当教員の指定による。			
備考				

科目名	情報表現特別演習III				
クラス	[03クラス]	対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	金2
担当教員	中川 善裕			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	映像や音響などのマルチ・メディアによるデジタル・コンテンツ制作についての研究内容や作品内容を充実させるために、学生が設定したテーマと関連が深い研究成果や作品について、その制作の方向性や制作技法について調査・研究する。その結果に基づいて学生が設定したテーマに関する研究や作品制作を実施して、その成果について発表と討議を行う。				
授業方針	<p>◆ 中川 善裕</p> <p>近年、発達目覚ましいコンピュータ等のデジタル機器の登場によって、音楽製作の様相は著しく変化してきた。五線譜と鉛筆と楽器と演奏者、そして録音スタジオが一つのノートパソコンに収まるようになった時、単なる効率性の追求という意味合いだけでない何らかの音楽的な内容の変化の可能性をも秘めているはずである。それらの可能性に目を向けながら、新しい時代の音楽表現法の総合的研究を行う。本演習では、デジタル・コンテンツ制作のテーマ設定と研究計画作成のための指導を行う。</p>				
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>院生の研究テーマおよび研究の進捗に合わせ、適宜課題にたいする演習を行う。</p> <p>第 1回 イン트로ダクション  第 2回 基礎テキスト輪読と音源試聴(Ⅰ)  第 3回 基礎テキスト輪読と音源試聴(Ⅱ)  第 4回 基礎実習(Ⅰ)  第 5回 基礎実習(Ⅱ)  第 6回 基礎実習(Ⅲ)  第 7回 基礎実習(Ⅳ)  第 8回 基礎実習(Ⅴ)  第 9回 課題実習(Ⅰ)  第 10回 課題実習(Ⅱ)  第 11回 課題実習(Ⅲ)  第 12回 課題実習(Ⅳ)  第 13回 課題実習(Ⅴ)  第 14回 課題実習(Ⅵ)  第 15回 まとめ及び試験</p>				
準備学習	初回授業で指示する参考図書等をよみ、専門用語の意味などを理解しておく事				
学習到達目標	授業スケジュールの各項目で行われたことを理解する事				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	学習した制作上の技術を用いて、自分の個性を表現することができたか。			
	成績評価 方法	学期末の提出作品 80%,平常点 20%			
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。			
教材	担当教員の指定による。				
備考					

科目名	情報表現特別演習Ⅳ			
クラス	[01クラス]	対象学年	2年	開講学期 後期
				曜日・時限 水4
担当教員	森沢 幸博			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	前期に引き続き、修士最終審査に向けたデジタル・コンテンツに関する研究制作を行う。 研究成果の新規性や創造性について検討し、研究成果をまとめた論文指導、最終審査に向けたプレゼンテーションの指導を行う。			
授業方針	コンピュータを利用した創造的なコンテンツの特性を理解するため、難易度の高いUI/UXデザイン提案を含む研究課題について指導を行い、ユーザーの特性に応じたデザイン力の修得を目標とする。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 設定した研究テーマの意図を確認し、技術的/内面的な問題点を討論する 第2回 研究課題検討 報告会 第3回 研究課題指導(1) コンセプトメイキング 第4回 研究課題指導(2) デザインパターン検証・考察 第5回 研究課題指導(3) 行為のインタフェースデザイン 第6回 研究課題指導(4) ニューメディア表現 第7回 研究課題指導(5) メディア芸術とインタフェース 第8回 中間報告会 ディスカッション 第9回 研究論文指導(1) 利用文脈の多重性と構造理解 第10回 研究論文指導(2) プロセスの実践と簡易化 第11回 研究論文指導(3) サービスシステム評価 第12回 研究発表準備(1) プレゼンテーション指導 第13回 研究発表準備(2) 最終発表指導 第14回 研究発表報告 質疑応答 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	授業時に示すレポート課題について事前に調べ、専門用語の意味などについて理解する(10時間) 中間研究課題、最終レポート課題作成(30時間) 指定した映像作品やコンテンツについてまとめ、最新デジタル技術の動向について予習と復習をしておく(20時間)			
学習到達目標	人間工学に基づくUI/UXデザインの応用知識を身につけ、研究テーマに応じたデザインやサービス提案ができるようになる。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	研究分野に関する専門知識と事例について理解し、自身の考えをもとに説明できる。 最新デジタル技術を利用したコミュニケーションサービスについて理解し、専門知識について説明することができる。		
	成績評価 方法	研究テーマに対する中間レポート20% 最終レポート30% 研究成果発表(中間報告+最終発表)50%		
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。		
教材	教科書:授業内で指示 Live Campusより教材資料を提供 参考書:研究課題の制作状況に応じて指定			
備考	主体的な学習を心がけ、自身で研究活動に必要な知識やスキルの習得を積極的に行ってください。			

科目名	情報表現特別演習Ⅳ			
クラス	[02クラス]	対象学年	2年	開講学期 後期
				曜日・時限 水4
担当教員	檀上 誠			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	本演習では、卒業研究を念頭に置き、自身の研究に関連のあるデジタル・コンテンツについて調査研究を行いつつ、CGを用いた実制作活動を行う。前期に引き続き、関連のある最新のデジタル・コンテンツについて先行事例の調査を行いつつ、必要とされる知識、技能、技術を明確化した上で、制作スケジュールを立て、実制作に取り組む。また、テーマ実現に向けた作品制作を行うと共に討議を重ね、プレゼンテーションにて思考を体系化させる。			
授業方針	昨今、CGを用いたデザイン能力は産業界において多岐に渡り活用されている。CG作品を制作する上で必要とされる知識・技術を習得することだけに傾倒すると他者との差別化が困難となるため、結果、デザイナーとしてのオリジナリティを築き上げることが出来なくなる。そこでCG制作のみに傾倒するのではなく、表現力を養うための指導も行う。 また、研究や作品制作に対するスピード感覚を高めつつ、毎回行う討議や中間・最終プレゼンテーションを通じイメージのみならず文字を用いた思考の体系化を強化する。			
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>&lt;学習内容&gt; 院生の研究テーマおよび研究の進捗に合わせ、適宜課題を明確化しつつ演習を行う。</p> <p>第 1回 研究テーマ及び後期制作スケジュールの作成 第 2回 先行事例の研究及びディスカッション 第 3回 先行事例の研究及びディスカッション (前期の進捗状況を踏まえ、卒業研究に必要とされる課題内容を明確化する) 第 4回 課題演習(Ⅰ)モデリング 第 5回 課題演習(Ⅱ)マテリアル、テクスチャ 第 6回 課題演習(Ⅲ)アニメーション 第 7回 課題演習(Ⅳ)レンダリング 第 8回 課題演習(Ⅴ)、中間チェック及びプレゼンテーション 第 9回 個人作品制作、論文指導(Ⅰ)モデリング 第10回 個人作品制作、論文指導(Ⅱ)マテリアル、テクスチャ 第11回 個人作品制作、論文指導(Ⅲ)アニメーション 第12回 個人作品制作、論文指導(Ⅳ)レンダリング 第13回 個人作品制作、論文指導(Ⅴ)映像編集 第14回 作品発表及びプレゼンテーション 第15回 まとめ及び試験</p>			
準備学習	<p>1. 作品の世界観を構築するための資料収集(30時間) 2. 作品制作に求められる知識・技能について事前に学習しておくこと(30時間)</p>			
学習到達目標	授業スケジュールの各項目で行われたことを理解する事			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	作品における表現力、制作技術の習得、口頭発表の内容		
	成績評価 方法	提出作品(80%)、口頭発表の内容(20%)		
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第14条に定める。		
教材	担当教員の指定による。			
備考				

科目名	情報表現特別演習Ⅳ			
クラス	[03クラス]	対象学年	2年	開講学期 後期
				曜日・時限 金2
担当教員	中川 善裕			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	映像や音響などのマルチ・メディアによるデジタル・コンテンツ制作についての研究内容や作品内容を充実させるために、学生が設定したテーマと関連が深い研究成果や作品について、その制作の方向性や制作技法について調査・研究する。その結果に基づいて学生が設定したテーマに関する研究や作品制作を実施して、その成果について発表と討議を行う。			
授業方針	◆ 中川 善裕 近年、発達目覚ましいコンピュータ等のデジタル機器の登場によって、音楽製作の様相は著しく変化してきた。五線譜と鉛筆と楽器と演奏者、そして録音スタジオが一つのノートパソコンに収まるようになった時、単なる効率性の追求という意味合いだけでない何らかの音楽的な内容の変化の可能性をも秘めているはずである。それらの可能性に目を向けながら、新しい時代の音楽表現法の総合的研究を行う。本演習では、デジタル・コンテンツ制作のテーマ設定と研究計画作成のための指導を行う。			
学習内容 (授業 スケジュール)	院生の研究テーマおよび研究の進捗に合わせ、適宜課題にたいする演習を行う。 第 1回 イン트로ダクション 第 2回 基礎テキスト輪読と音源試聴(Ⅰ) 第 3回 基礎テキスト輪読と音源試聴(Ⅱ) 第 4回 基礎実習(Ⅰ) 第 5回 基礎実習(Ⅱ) 第 6回 基礎実習(Ⅲ) 第 7回 基礎実習(Ⅳ) 第 8回 基礎実習(Ⅴ) 第 9回 課題実習(Ⅰ) 第 10回 課題実習(Ⅱ) 第 11回 課題実習(Ⅲ) 第 12回 課題実習(Ⅳ) 第 13回 課題実習(Ⅴ) 第 14回 課題実習(Ⅵ) 第 15回 まとめ及び試験			
準備学習	初回授業で指示する参考図書等をよみ、専門用語の意味などを理解しておく事			
学習到達目標	授業スケジュールの各項目で行われたことを理解する			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	学習した制作上の技術を用いて、自分の個性を表現することができたか。		
	成績評価 方法	学期末の提出作品 80%,平常点 20%		
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。		
教材	担当教員の指定による。			
備考				

科目名	家族関係・集団・地域社会における心理支援			
クラス	[01クラス]	対象学年	1年,2年	開講学期 前期
				曜日・時限 月2
担当教員	巖 秀章			単位区分 ○(選必)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	心を取り巻く環境は複雑化し、われわれが取り組む問題も、個人面接だけでは解決が困難な事態が増えてきている。このような事態を打開するために展開されてきた技法として、家族や集団、地域への働きかけの技法がある。これらは大別すると、言語の媒介を中心とするものと、活動や非言語的表現を用いるものがある。			
授業方針	この授業では、これらの技法全般について知ると共に、特に集団に関して比較的安全な技法とされる構成的技法を実習すること、および現場でのグループ・アプローチ(集団精神療法)の実践を知ることが目的とする。			
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>講義による技法理解では、各種技法とその背景となる理論について学ぶ。また各技法の論文を呼んで発表する。実習では現場での実際を知ること努める。機会があれば実地に参加することになる。今までの実績では、総合精神病院、地域精神保健拠点・クリニックなどの見学実習、芸術療法・マインドフルネス・体験グループの体験実習を行っている。</p> <p>第1回 家族、集団、地域の理論 精神分析  第2回 認知心理学  第3回 人間性心理学  第4回 家族、集団、地域の技法 入院  第5回 デイケア  第6回 教育領域  第7回 司法・矯正領域  第8回 発達領域  第9回～第15回 見学・体験実習</p>			
準備学習	この領域に関する問題意識を整理しておくこと。			
学習到達目標	各技法の全体像を知るとともに、自分の取り組み方について考える。			
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	論文を読んでどれくらい理解できるか、また見学での自分の体験をどの程度言語化できるか		
	成績評価 方法	レポート50%、討議など授業への参加状況50%。		
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。		
教材	追って通知する。			
備考				

科目名	学習心理学特論				
クラス	[01クラス]	対象学年	1年,2年	開講学期	前期
				曜日・時限	金3
担当教員	藤田 勉			単位区分	○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	<p>①アメリカの学習心理学者スキナー(Skinner, B.F.)を創始者とする行動分析学の理論と技法を学ぶ。行動分析学の知見を利用し、自分の行動をより望ましい方向に変容させる具体的な手続きを考える(じぶん実験の実施)。          ②記憶術の修得をめざし、その学習過程を観察・検討する。</p>				
授業方針	原則的には講義形式で進められるが、実際の実験場面や行動変容の過程等については視聴覚教材を活用して受講生に提示する。また、授業の中で関連文献の講読をする。				
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>第1回 キック・オフ(授業のガイドライン, 行動とは, 行動分析学とは)          第2回 ~ 第4回 I. 行動変容の基礎(学習とは, 学習心理学とは, 行動の種類, 2つの条件づけ:レスポナント条件づけとオペラント条件づけ)          第5回 ~ 第7回 II. 行動変容技法の日常への応用(じぶん実験の方法と注意点)          第8回 III. 記憶①(記憶とは, 記憶の過程, 記憶の検査法など)          第9回 記憶②(記憶の諸現象, 記憶の変容, ヒトはなぜ忘れるのか:忘却の理論他)          第10回 記憶③(記憶術とは, 代表的な記憶術) II          第11回 記憶④(記憶術の演習)          第12回 IV. じぶん実験の経過報告①, 記憶術の学習過程の確認①          第13回 じぶん実験の経過報告②, 記憶術の学習過程の確認②          第14回 じぶん実験の経過報告③, 記憶術の学習過程の確認③          第15回 レポートの作成</p>				
準備学習	<p>① 指定した教科書, 授業中に配布するプリント類, 参考文献等を事前に読んでおくこと。(20時間)          ② オペラント条件づけを利用し, 実際に行動を変容させる実験を行う。(20時間)          ③ 記憶術修得のために必要な準備・練習をすること。(20時間)</p>				
学習到達目標	<p>○オペラント条件づけの手続きについて知り, それを応用できるようになる。          ○学習心理学(行動分析学)の視点でヒトや動物の行動を考えることができるようになる。          ○他者および自分の行動をより望ましい方向に変容させる手続きについて, 合理的・具体的に思考できるようになる。          ○記憶術の修得。</p>				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	<p>○オペラント条件づけの手続きを正確に理解し, 他者あるいは自分の行動を望ましい方向に変容させることができるか(課題発表の内容で評価)。          ○記憶術をどの程度修得できたか(記憶力テストの想起率で評価)。          ○学習心理学の考え方を正確に理解できているか(レポートの内容で評価)。</p>			
	成績評価 方法	課題発表30%, 記憶術の修得状況30%, レポート40%で総点を求め評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。			
教材	<p>テキスト:藤田勉・藤田直子(2019)「新版行動科学序説(新版5刷)」世音社          参考図書:藤田勉(2012)「ふじたつとむの子育て・保育虎の巻《行動編》」ほおずき書籍</p>				
備考					

科目名	教育分野に関する理論と支援の展開				
クラス	[01クラス]	対象学年	1年,2年	開講学期	後期
				曜日・時限	火1
担当教員	巖岩 秀章			単位区分	○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	学校現場では、いじめや不登校、あるいは発達障害に関する問題など多種多様な問題が、小・中・高から大学にまで広がっている。支援者は、このような問題に対して迅速に対応することが求められている。この授業では、学校現場において生じている様々な問題の背景や理論について学び、学校現場が抱える問題を理解することを目指す。				
授業方針	また、児童・生徒が抱える問題だけではなく児童・生徒を支える教師や保護者、関係機関などとの連携についても、事例等を通して学び、これらの問題への、実践的な臨床心理学的アプローチを身につけることを目指す。その中で、これまでに身につけてきた臨床心理学的に関する知識や技術を、学校現場においてどのように活用することができるか、学部生の話し合いのリーダーを務めることを通して取り組む。そのため授業は学部生の学校臨床心理学への参加と個別指導が中心となる。				
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>第一回 学校現場における問題</p> <p>第二回 テーマに沿った話し合い 居場所</p> <p>第三回 テーマ学習 居場所</p> <p>第四回 教育におけるカウンセリング</p> <p>第五回 テーマに沿った話し合い</p> <p>第六回 テーマ学習 教育におけるカウンセリング</p> <p>第七回 発達におけるカウンセリング</p> <p>第八回 テーマに沿った話し合い 発達カウンセリング</p> <p>第九回 テーマ学習 発達におけるカウンセリング</p> <p>第十回 学校における心理技法</p> <p>第十一回 テーマに沿った話し合い 学校における心理技法</p> <p>第十二回 テーマ学習 学校における心理技法</p> <p>第十三回 コラボレーション</p> <p>第十四回 テーマに沿った話し合い コラボレーション</p> <p>第十五回 まとめおよび試験</p>				
準備学習	この領域における自分の問題意識を整理しておくこと。				
学習到達目標	話し合いをうまく進めることとそのプロセスをまとめること				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	リーダーとして気づいたことを表現できるか、メンバーの意見を十分に聞けるようになったか			
	成績評価 方法	レポート50%、グループリーダーなど授業への参加状況50%。			
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。			
教材	別途通知する。				
備考					

科目名	産業・労働分野に関する理論と支援の展開			
クラス	[01クラス]	対象学年	1年,2年	開講学期 後期
				曜日・時限 月1
担当教員	彦坂 正樹			単位区分 _(選択),○(選必)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	産業・労働分野は公認心理師の活躍が期待される職域である。この職域は、心理学諸分野の知識・理解を基盤として、個人への見立てや対応のみならず組織や場への見立てや対応が、また組織内外の多職種との機動的な連携・協働が求められ、さらには関連法規などの知識や経済社会情勢への目配りも欠かせない。応用的だがやりがいも大きいこの職域で必要とされる心理職を目指す上での実践的な学びを深める。			
授業方針	当科目では、現場対応力を養成するため多くの臨床事例に触れながら実践的に学んでいく。各テーマに沿って毎回事前に指定した項目についてのミニレポートを課し、必要に応じて発表、討論をしてもらう。毎回の講義内にも、その日のまとめと振り返りのミニレポートを作成する。主体的、積極的な参加を期待する。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 オリエンテーション 第2回 産業・労働分野に関する基本事項 ① 会社組織とメンタルヘルスを担う人々 第3回 産業・労働分野に関する基本事項 ② 法律・制度 第4回 産業・労働分野に関する基本事項 ③ 安全配慮義務、4つのケア、3つの予防 第5回 産業・労働分野に関する基本事項 ④ ストレスチェックと職場環境改善 第6回 産業・労働分野における支援の実際 ① うつ病・適応障害 第7回 産業・労働分野における支援の実際 ② 発達障害 第8回 産業・労働分野における支援の実際 ③ 職場復帰支援 第9回 産業・労働分野における支援の実際 ④ ハラスメント、キャリア形成・開発 第10回 産業・労働分野における支援の実際 ⑤ コンサルテーション 第11回 産業・労働分野における支援の実際 ⑥ メール、電話、スカイプによる支援 第12回 産業・労働分野における支援の実際 ⑦ 教育研修・情報提供 第13回 産業・労働分野における支援の実際 ⑧ 危機介入 第14回 産業・労働分野における支援の実際 ⑨ 海外駐在員への支援 第15回 まとめ			
準備学習	1. 教科書や適宜指示する資料を精読し、知識・理解を深めること。(30時間) 2. 様々な文献、資料にあたって事前課題のミニレポート及び最終レポートを作成すること。(30時間)			
学習到達目標	1. 職場における問題に対して必要な心理的支援及びその方法について理解し、説明できる。 2. 組織における人の行動、心理について概説できる。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1. 産業・労働分野に関する基本事項を理解し、説明できるか。 2. 産業・労働分野における支援の実際を理解し、説明できるか。		
	成績評価 方法	毎回のミニレポートと発表・討論への参加度50%、最終レポート50%で評価する。		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会学部規程第14条に定める。(人間社会研究科の場合は 埼玉工業大学人間社会研究科規程第15条に定める。)		
教材	教科書: 三浦由美子・磯崎富士雄・斎藤壮士(2018)『産業・組織カウンセリング実践の手引き』遠見書房			
備考				

科目名	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開				
クラス	[01クラス]	対象学年	1年,2年	開講学期	前期
				曜日・時限	火2
担当教員	小野 広明			単位区分	○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	犯罪・非行は例外的又は特殊な行動ではなく、人間が持っている特性が極端な形あるいは先鋭化した形で発現したものである。犯罪・非行を理解することは人間理解の幅を広げるとともに、犯罪の予防及び再犯の防止に貢献する。				
授業方針	犯罪・非行心理に関する国内外の重要文献の読解、担当教員による犯罪事例の提供等を基に研究討議を行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>犯罪がどのような原因、機制によって生じるのか、犯罪者の更生、社会の犯罪対策に何が必要なのか、さらに、犯罪者の臨床心理査定における重要事項は何かについての理解を深める。</p> <p>第1回 犯罪心理学とは何か  第2回 犯罪概念論  第3回 犯罪の生物学的基盤  第4回 犯罪の心理学的基盤  第5回 犯罪の社会学的基盤  第6回 犯罪原因論  第7回 犯罪臨床心理学とは何か  第8回 犯罪者の司法手続  第9回 犯罪者の査定  第10回 犯罪者の処遇・治療  第11回 犯罪被害者をめぐる諸問題  第12回 犯罪事例の検討①  第13回 犯罪事例の検討②  第14回 犯罪事例の検討③  第15回 まとめと試験</p>				
準備学習	毎回、次回の授業で用いる文献・事例の提供、あるいは研究討議テーマの指定を行うので、事前に文献等を読解したりテーマに関する意見をまとめておくこと。				
学習到達目標	内外の文献講読、犯罪事例の検討等により、犯罪(非行)に関する専門的で幅広い心理学的知見を身につけること。				
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。			
	成績評価 方法	授業内容の理解度50%、受講態度50%。			
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。			
教材	指定しない。適時、資料を配布する。				
備考					

科目名	思春期・青年期カウンセリング特論				
クラス		対象学年	1年,2年	開講学期	前期
				曜日・時限	火5
担当教員	巖 秀章			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	思春期・青年期は子どもから大人へと変わる人格形成の大きなノーダルポイントである。そこで出会う多くのものが、その後のわれわれの人生に大きな影響を与える。この授業では、この時期の成長への心理的支援として、どのような考え方が重要であり、どのような関わり方が有効であるのかを学ぶ。				
授業方針	講義、論文講読、実習から学ぶことを目指す。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 思春期・青年期カウンセリングとは何か 第2回 論文講読 思春期・青年期カウンセリングの実際 1 第3回 論文講読 思春期・青年期カウンセリングの実際 2 第4回 事例講読 思春期・青年期カウンセリングの実際 3 第5回 思春期・青年期カウンセリングの諸問題 ピア 第6回 思春期・青年期カウンセリングの諸問題 発達 第7回 思春期・青年期カウンセリングの諸問題 学校 第8回 思春期・青年期カウンセリングの病理 1 第9回 思春期・青年期カウンセリングの病理 2 第10回 思春期・青年期カウンセリングの病理 3 第11回 思春期・青年期カウンセリングの病理 4 第12回 思春期・青年期カウンセリングの病理 5 第13回 思春期・青年期カウンセリングとは何か 再考 1 第14回 思春期・青年期カウンセリングとは何か 再考 2 第15回 まとめ  スケジュールは変動することがある。				
準備学習	1)論文を事前に読んでおく。 2)実習の下調べをする。 3)報告資料の作成				
学習到達目標	1)思春期・青年期心性の理解 2)思春期・青年期のクライアントにカウンセリングの目的を説明できるようになる。 3)思春期・青年期カウンセリングの諸問題、病理の理解。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	授業やレポート、個別指導において、上記の学習目標をどの程度満たしているか			
	成績評価 方法	実習への参加と指導(50%)、指定された事例の報告とレポート(50%)			
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。			
教材	別途通知する。				
備考					

科目名	視覚情報処理心理学特別演習			
クラス	[01クラス]	対象学年	1年,2年	開講学期 後期
				曜日・時限 金3
担当教員	大塚 聡子			単位区分 _(選択),○(選必)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	視覚情報処理機構の解明に関する研究動向と研究手法についての理解を深めるため、最近の重要な英文論文を輪読する。対象論文の理論的背景を理解した上で、主張と実験・研究手法の整合性、データ解釈の妥当性、および結論の導出論理などについて検討し、さらに、適切な発展的研究計画に関する討論を行う。			
授業方針	心理学と脳科学、情報科学にわたる学際領域としての視覚情報処理について、最新の研究成果を知り、発展的な問題設定をする能力が身につくよう教育指導を行う。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 生理学的基礎1 第2回 生理学的基礎2 第3回 心理物理学1 第4回 心理物理学2 第5回 空間特性 第6回 時間特性 第7回 モジュール1 形状 第8回 モジュール2 色 第9回 モジュール3 奥行き 第10回 モジュール4 運動 第11回 注意 第12回 眼球運動 第13回 高次過程 第14回 他感覚との相互作用 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	指定された資料を事前に熟読し、発表・討論の準備をしておくこと。(30時間) 授業内容のまとめに基づき復習をしておくこと。(10時間) 授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること。(20時間)			
学習到達目標	英文論文を読解し、その内容を他者に説明し、さらに内容についての討論を行うことができるようになる。視覚情報処理に関する最近の研究動向を知る。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	英文学術論文を的確に読解したか。 論文の内容について適切に説明できたか。 内容に関する討論に積極的に参加したか。		
	成績評価 方法	討論への寄与の状況を50%、課題への取り組み状況を50%として評価する。		
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。		
教材	教科書: 授業中に指定する。 参考書: 授業中に適宜紹介する。			
備考				

科目名	視覚情報処理心理学特論				
クラス	[01クラス]	対象学年	1年,2年	開講学期	前期
				曜日・時限	金2
担当教員	大塚 聡子			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	視覚情報処理機構を心理学的に研究するうえで必要となる基礎的知識を獲得するための講義を行う。具体的には、感覚受容から知覚・認知という各段階について、これまで開発されてきた研究手法、明らかにされてきた事実、および構築されてきたモデルを学ぶ。それぞれの話題については、心理学的手法に限らず、医学、脳科学、情報工学など多岐にわたるアプローチに基づくものも扱う。これにより視覚研究を発展的に進めていけるよう教育研究を行う。				
授業方針	事前に各回の授業にて講読する文献を指定する。授業ではその文献内容について担当教員が説明を加えた後に、受講生を交えて批判的に討論する。また、当該テーマについて新しい問題点を見つけ出し、それを検証する方法を検討するトレーニングを行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 生理学的基礎1 第2回 生理学的基礎2 第3回 心理物理学1 第4回 心理物理学2 第5回 空間特性 第6回 時間特性 第7回 モジュール1 形状 第8回 モジュール2 色 第9回 モジュール3 奥行き 第10回 モジュール4 運動 第11回 注意 第12回 眼球運動 第13回 高次過程 第14回 他感覚との相互作用 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	指定された資料を事前に熟読し、発表・討論の準備をしておくこと。(30時間) 授業内容のまとめに基づき復習をしておくこと。(10時間) 授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること。(20時間)				
学習到達目標	視覚情報処理機構に関する専門的な知識を身につける。 視覚研究を進めるための多角的な視野をもつ。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	視覚情報処理に関する知識を習得したか。 討論に積極的に参加したか。			
	成績評価 方法	討論への寄与の状況を50%、課題への取り組み状況を50%として評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。			
教材	教科書:授業中に指定する。 参考書:授業中に適宜紹介する。				
備考					

科目名	社会心理学特論				
クラス	[01クラス]	対象学年	1年,2年	開講学期	前期
				曜日・時限	金2
担当教員	友田 貴子			単位区分	○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	比較的新しい社会心理学の英語論文(Journal of Personality and Social Psychologyなどから)を講読し、最新の社会心理学の知見に触れる。				
授業方針	英語論文を読んだり、英語論文をレジュメにまとめることに慣れていない場合も、時間をかけて取むこと。他の受講者が理解できるレジュメを作成すること。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 社会心理学の論文の読み方 第 2回 発表(1) 第 3回 発表(2) 第 4回 発表(3) 第 5回 発表(4) 第 6回 発表(5) 第 7回 発表(6) 第 8回 発表(7) 第 9回 発表(8) 第10回 発表(9) 第11回 発表(10) 第12回 発表(11) 第13回 発表(12) 第14回 発表(13) 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	①比較的新しいJournal of Personality and Social PsychologyなどのAPA発刊の雑誌を手に取り、どの論文を読むか決めておく(5時間)。 ②論文を読み、日本語レジュメを作成する(55時間)。				
学習到達目標	社会心理学の最新の知見を他のひとが理解できるように発表すること。				
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	レジュメを作成し他のひとにわかるように発表することができたかどうか。			
	成績評価 方法	各自のレジュメと発表の内容が60%、授業への参加態度が40%			
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。			
教材	各自で論文を用意しレジュメを作成する。発表にあたり講読した論文とそのレジュメを人数分準備すること。				
備考					

科目名	心の健康教育に関する理論と実践			
クラス	[01クラス]	対象学年	1年,2年	開講学期 前期
				曜日・時限 時間外
担当教員	清水 安夫			単位区分 _(選択),○(選必)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	WHO(1948)は、「健康とは、単に病気や虚弱ではないということではなく、肉体的・精神的・社会的にも満たされた状態にあること」と定義しています。そのため、「心の健康」を考える場合も、個人・社会・環境を包括的に捉えて考察する必要があります。本講義では、「公認心理師」の資格取得を希望されている大学院生の方々に、1)心の健康教育に関する理論、2)心の健康教育に関する実践を学ぶために、研究論文を輪読し、内容の報告をしていただきます。			
授業方針	本授業では、担当教員の「講義」と履修者による「プレゼンテーション」及び「ディスカッション」を組み合わせる授業展開を予定しています。受講者の皆さんには、事前に準備された「論文資料」を精読していただき、スライドに概要をまとめて発表していただきます。また、発表内容に関してディスカッションに参加していただきます。発表者は、PPT資料を準備し、PCプロジェクターを使用して発表してもらいます。本授業では、「精読」「資料作成」「発表」「討議」という能動的な学習を通して、知識と思考の定着を図りたいと考えております。			
学習内容 (授業スケジュール)	本講義では、「こころの健康教育」にかかわる多岐に渡るテーマを扱いたいと考えております。その中には、学齢期の児童生徒を対象とした、「いじめ」「問題行動」「生徒指導」「ひきこもり」「貧困」「虐待」「学習」「習熟度別学習」「予防的開発教育」「各種教育方法(イエナプラン等)」「グループエンカウンター」から、成人労働者を対象とした「過重労働」「雇用問題」「ハラスメント」「ストレスマネジメント」「情動教育」「アサーション」「アンガーマネジメント」などが含まれています。また、講義では、メンタルヘルスに関する複合的な要因に焦点を当て、どのように維持・改善が図れるのかなどを考えて行く予定です。 1 概論・導入 2 学校のメンタルヘルス(子どものメンタルヘルス) 3 学校のメンタルヘルス(教師のメンタルヘルス) 4 職場のメンタルヘルス(ストレス問題①) 5 職場のメンタルヘルス(ストレス問題②) 6 行動科学によるストレス理論①(Social Cognitive Theoryほか) 7 行動科学によるストレス理論②(Transtheoretical Model for Behavior Changeほか) 8 論文精読 I 「職場・労働関係①」 9 論文精読 II 「職場・労働関係②」 10 論文精読 III 「職場・労働関係③」 11 論文精読 IV 「学校関係①」 12 論文精読 V 「学校関係②」 13 論文精読 VI 「学校関係③」 14 論文精読 VII 「コミュニティ①」 15 論文精読 VIII 「コミュニティ②」			
準備学習	①毎時の講義用の資料論文の精読に(2時間×15回=30時間)に加え、②スライドの作成および配布資料の準備に(3時間×15回=45時間)、③最終レポートの執筆に10時間の合計85時間の準備および学習時間が、講義時間(30時間)以外に必要な時間となる。			
学習到達目標	本講義における学習到達目標は、公認心理師資格を取得するために必要な、1)心の健康教育に関する理論、2)心の健康教育に関する実践について学ぶことです。具体的には、「こころの健康教育」を理解する上で必要となる、①多種多様な社会環境の問題とその要因、②健康教育に関する研究理論、③具体的な予防的・開発的教育による介入方法、④調査や評価の方法について学び、有効な介入方法や評価方法について学習いたします。			
成績評価基準	達成度 評価基準	1. 授業での発表:[PPT質・時間配分・説明の明瞭性など] 2. 発表用配布資料:[資料の分かり易さ・資料の分量など] 3. ディスカッションへの参加度:[問題の提起・建設的な発言・具体的な提案など] 4. 最終レポート:[課題に対する読み取り・文章の明瞭性・論理性など]		
	成績評価 方法	1. 授業での発表(20%) 2. 発表用配布資料(20%) 3. ディスカッションへの参加度(20%) 4. 最終レポート(40%)		
	成績評価	埼玉工業大学人間社会研究科規程第15条に定める。		
教材	授業時に参考文献を紹介いたします。			
備考	集中授業ですので、資料の読み込みやスライド作成に時間をかけられるように、6月末までに課題をお知らせいたします。授業開始までに、十分に時間をかけて準備をしておいてください。			

科目名	心理学研究法特論				
クラス	[01クラス]	対象学年	1年,2年	開講学期	前期
				曜日・時限	金1
担当教員	大塚 聡子			単位区分	○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	一般的な科学的方法論の基礎を教授した上で、実験法や質問紙法など、基礎心理学と臨床心理学で用いられる主要な測定法について、理論的枠組みや特徴を示し、具体的な適用例を示して有効性と限界を検討する。また、人間を対象とする学問としての心理学における方法論上の特殊性と倫理性の問題を講義する。				
授業方針	受講生が研究目的に応じた手法を選択することができ、またその手法に関する知識を獲得することを目的に教育研究を行う。授業は講義形式で実施されるが、受講生は自身がとる研究手法立場から積極的に批判的コメントを述べることを求められる。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 心理学研究法入門 第2回 科学的方法論1 第3回 科学的方法論2 第4回 実験法 第5回 質問紙法 第6回 観察法 第7回 面接法 第8回 生理的計測法 第9回 尺度構成法 第10回 心理検査法 第11回 独立変数と従属変数 第12回 統計的検定の問題 第13回 研究参加者の問題 第14回 倫理的問題 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	指定された資料を事前に読み、多様な観点から討論ができるよう準備しておくこと。(40時間) 授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること。(20時間)				
学習到達目標	心理学研究法の基礎的・発展的知識を習得する。 さまざまな研究法に対し、自らの専門分野の立脚点からの批判的討論を行うことができるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	心理学における多様な手法と問題点を理解できたか。 自らの専門分野の研究法の視点から、紹介されたそれぞれの研究方法に対する論理的な討論ができるようになったか。			
	成績評価 方法	討論への寄与の状況を50%、課題への取り組み状況を50%として評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。			
教材	教科書 使用しない。 参考書 講義中に適宜指示する。 その他 必要な資料は授業時に配布する。				
備考					

科目名	心理療法特論				
クラス	[01クラス]	対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	水3
担当教員	三浦 和夫			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	心理療法を学ぶには、事例検討を中心にしながらさまざまな理論や技法を学ぶ必要がある。事例検討には二つの方法がある。1)すでに論文として発表された事例から、2)実際に継続、または終了または中断した事例から。本講座では(1)を中心に、(2)も適時扱ってみたい。様々な技法、クライアントの年代や主訴、病態レベル、また面接構造や初期、中期、後期の問題など、できるだけ事例検討を通して学ぶ。				
授業方針	事例論文の報告、実際に中断または終了した担当事例の報告などを中心にすすめる。担当事例と関連した論文を適宜指定する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	1 日程の確認及び論文事例レポート担当を決める。 2 記録とは 3 事例検討とスーパービジョン 4 論文事例検討 5 担当事例検討 6 論文事例検討 7 論文事例検討 8 論文事例検討 9 担当事例検討 10 論文事例検討 11 論文事例検討 12 論文事例検討 13 担当事例検討 14 論文事例検討 15 まとめ				
準備学習	論文事例報告者は担当論文を熟読し要約し、必要の応じて他の事典等にもあたりレジユメを作成すること。また、自分なりの意見をもつこと。参加者は必ず指定論文を読んで参加すること。担当事例報告者は40分以内に報告できるように、まとめておくこと。				
学習到達目標	事例や事例研究に対する取り組み方を身につけること				
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	事例研究や事例に対する取り組み方を身につけ、今後の事例に真摯な態度をもって取り組めるかどうか			
	成績評価 方法	発表と授業参加度を加味する。			
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。			
教材	適時、論文を指定する。				
備考					

科目名	知覚心理学特別演習				
クラス	[01クラス]	対象学年	1年,2年	開講学期	後期
				曜日・時限	月3
担当教員	曾我 重司			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	知覚分野の、特に空間知覚、運動知覚、時間知覚、生態学的知覚論などに関する基本的な欧文論文を輪読し、内容について考察、議論する。文章として記述された内容の理解につとめると共に、文献に記載された現象を再現し、実際に観察することで内容の理解を深め、時には批判的な観点から現象の観察および記述の方法を議論する。そのような議論に基づいて、自らの観察に基づく新たな視点からの研究、現象の解釈などが行えるように教育指導を行う。				
授業方針	視知覚を中心とした文献を講読し、議論を行う。異なった分野を専門とする受講生であれば、それぞれの専門分野からのアプローチの相違の指摘や討論など、多様な観点からの視知覚についてのとらえ方を学習し、議論する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 知覚心理学の基礎的文献の講読 第2回 形の知覚(生理的メカニズムに関わる文献講読) 第3回 形の知覚(ゲシュタルト心理学に関わる文献講読) 第4回 形の知覚(主観的輪郭に関わる文献講読) 第5回 生理的要因による空間視の文献講読 第6回 絵画的手がかりによる空間視の文献講読 第7回 運動手がかりによる空間視の文献講読 第8回 実際運動の知覚に関する文献講読 第9回 仮現運動に関わる文献講読 第10回 誘導運動に関わる文献講読 第11回 アニメーションにおける運動表現の文献講読 第12回 時間知覚生理的機序に関わる文献講読 第13回 時間知覚のさまざまな現象に関わる文献講読 第14回 生態学的視覚論の講読 第15回 まとめおよび試験				
準備学習	文献の内容を詳細に理解し発表するのみならず、多様な観点からの議論ができるよう、自分の専門分野からの視点について整理しておくこと。(60時間)				
学習到達目標	文献を読みこなし、適切にまとめ、発表できるようになること。また、それらに対する自らの専門分野の立脚点からの批判的討論ができるようになること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	文献を読みこなすのみならず、自らの専門分野の視点から、批判的討論ができるようになったか。			
	成績評価 方法	各文献の発表の内容(理解度・発表の良否)を50%、討論における議論の背景にある各自の専門分野の理解度を50%として評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。			
教材	教科書:講義中に適宜指示する。 参考書:講義中に適宜指示する。				
備考					

科目名	知覚心理学特論				
クラス	[01クラス]	対象学年	1年,2年	開講学期	前期
				曜日・時限	月1
担当教員	曾我 重司			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	視知覚を中心に、空間視、運動視、時間知覚、生態学的視覚論などの代表的な知覚研究の歴史と方法および知覚の基本特性を講義する。また、それらの基本的知識を具体的に表す様々な知覚現象を取り上げ、理論的解釈を示し、それらの現象の基礎となる情報処理過程や知覚機構および現象的記述の方法などを解説する。その上で、最新の視知覚研究の知見を紹介、講義し、知覚分野における基本的知識に立脚して発展的に研究が進められるように教育研究を行う。				
授業方針	視知覚を中心とした講義を行うが、それぞれの知見に関して積極的な討論を行うことを要求する。異なった分野を専門とする受講生であれば、それぞれの専門分野からのアプローチの相違の指摘など、多様な観点からの視知覚についてのとらえ方を学習する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 知覚心理学の研究対象について 第2回 形の知覚 -生理的メカニズム- 第3回 形の知覚 -ゲシュタルト要因- 第4回 形の知覚 -主観的輪郭- 第5回 空間視 -生理的手がかりによるもの- 第6回 空間視 -絵画的手がかりによるもの- 第7回 空間視 -運動手がかりによるもの- 第8回 運動視 -知覚された運動とは- 第9回 運動視 -仮現運動とは- 第10回 運動視 -仮現運動の特性- 第11回 運動視 -誘導運動とは- 第12回 時間知覚 -時間知覚の生理的機序- 第13回 時間知覚 -時間知覚の現象について- 第14回 生態学的視覚 -ギブソンはいかに生態学的視覚論をまとめたか- 第15回 まとめおよび試験				
準備学習	講義内容に対して多様な観点からの議論ができるよう、自分の専門分野からの視点について論文を読んで準備し、内容を整理しておくこと。(60時間)				
学習到達目標	知覚心理学の基礎知識、発展的知識を習得し、かつそれらに対する自らの専門分野の立脚点からの批判的討論ができるようになること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	自らの専門分野の視点から、討論ができるようになったか。			
	成績評価 方法	討論への参加の程度およびその背景にある個々の研究的立脚点の理解度を50%、期末課題を50%として評価する			
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。			
教材	教科書：講義中に適宜指示する。 参考書：講義中に適宜指示する。				
備考					

科目名	乳幼児心理学特論I				
クラス		対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	水2
担当教員	友田 貴子,藤巻 るり			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	乳幼児との関わりの基礎を学ぶ。臨床心理センターの子育て支援のグループに参加する1歳から4歳くらいまでの乳幼児と実際に「遊び」、乳幼児の行動や心性を知ると共に、乳幼児との関わりにはどのようなことが必要なかを体験的に学び、プレイセラピーなどに生かすことができることを目標とする。				
授業方針	できるだけ毎回同じ乳幼児に関わることで、児の発達や、経時的な関わり方について体験していく。また、保護者(主に母親)の乳幼児との関わりなどについてもみていく。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 グループミーティング 第2回 ウォーミングアップ 第3回 幼児グループ体験(第1段階) 第4回 幼児グループ体験(第2段階) 第5回 幼児グループ体験(第3段階) 第6回 幼児グループ体験(第4段階) 第7回 幼児グループ体験(第5段階) 第8回 幼児グループ体験(第6段階) 第9回 幼児グループ体験(第7段階) 第10回 幼児グループ体験(第8段階) 第11回 幼児グループ体験(第9段階) 第12回 幼児グループ体験(第10段階) 第13回 幼児グループ体験(第11段階) 第14回 幼児グループ体験(第12段階) 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	乳幼児の発達段階について理解しておくこと(60時間)。				
学習到達目標	乳幼児との関わりを体験すること。				
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	乳幼児との関わりの体験ができたかどうか。			
	成績評価 方法	グループ活動への参加80%、グループ後の話し合いへの参加度20%。			
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。			
教材	とくになし				
備考	授業の初回にはかならず出席すること。授業には毎回出席すること。授業態度によっては、受講の取りやめを促すことがある。				

科目名	乳幼児心理学特論II				
クラス		対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	水2
担当教員	友田 貴子,藤巻 るり			単位区分	_(選択),○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	乳幼児心理学特論 I に引き続き、乳幼児との関わりを学ぶ。臨床心理センターの子育て支援のグループに参加する1歳から4歳くらいまでの乳幼児と実際に「遊び」、乳幼児の行動や心性を知ると共に、乳幼児との関わりにはどのようなことが必要なのかを体験的に学び、プレイセラピーなどに生かすことができることを目標とする。				
授業方針	乳幼児心理学特論 I に引き続き、できるだけ毎回同じ乳幼児に関わることで、児の発達や、経時的な関わり方について体験していく。また、保護者(主に母親)の乳幼児との関わりなどについてもみていく。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 幼児グループ体験(第13段階) 第2回 幼児グループ体験(第14段階) 第3回 幼児グループ体験(第15段階) 第4回 幼児グループ体験(第16段階) 第5回 幼児グループ体験(第17段階) 第6回 幼児グループ体験(第18段階) 第7回 幼児グループ体験(第19段階) 第8回 幼児グループ体験(第20段階) 第9回 幼児グループ体験(第21段階) 第10回 幼児グループ体験(第22段階) 第11回 幼児グループ体験(第23段階) 第12回 幼児グループ体験(第24段階) 第13回 幼児グループ体験(第25段階) 第14回 幼児グループ体験(第26段階) 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	乳幼児の発達段階について理解しておくこと(60時間)。				
学習到達目標	乳幼児との関わりを体験すること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	乳幼児との関わりを体験できたかどうか。			
	成績評価 方法	グループ活動への参加80%、グループ後の話し合いへの参加度20%。			
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。			
教材	とくになし				
備考					

科目名	認知心理学特別演習			
クラス	[01クラス]	対象学年	1年,2年	開講学期 後期
				曜日・時限 水1
担当教員	河原 哲雄			単位区分 _(選択),○(選必)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	人間の帰納学習と知識獲得, 言語獲得研究に関する最新の欧文論文を輪読する。取り上げた論文の理論的な背景や主張, 心理学実験や分析法, コンピュータ・シミュレーションといった研究技法, 結論の妥当性や研究としての重要性を批判的に検討し, それらの研究を追試し, あるいは反論を加え, さらに発展させるために何が必要かを具体的に考察する。また, そうした研究を行う上で必要となる実験機器やソフトウェアなどの実習を含む教育指導を行う。			
授業方針	一人または数名で学術論文を担当し, レジューメを作成して発表するゼミ形式の授業と, 実験機器・ソフトウェア等実習・デモンストレーションを交互に行う。発表・実習を担当していない受講者は, 各回の論文・マニュアルを事前に読み, 議論に参加する義務がある。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 各種機器・技法と論文の紹介 第2回 講読論文の選定と割り振り 第3回 論文講読: 認知心理学実験(1) 第4回 論文講読: 認知心理学実験(2) 第5回 実習: 認知心理学実験(1) 第6回 実習: 認知心理学実験(2) 第7回 論文講読: 言語心理学実験(1) 第8回 論文講読: 言語心理学実験(2) 第9回 実習: 言語心理学実験(1) 第10回 実習: 言語心理学実験(2) 第11回 論文講読: 言語統計モデル(1) 第12回 論文講読: 言語統計モデル(2) 第13回 実習: 言語統計モデル(1) 第14回 実習: 言語統計モデル(2) 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	(1)発表・実習担当者は, 担当論文・マニュアルを読み込み, 教員の指導を受けた上でレジューメ, プログラム等を作成し, 発表に備える。(35時間) (2)それ以外の受講者は, 各回の論文・マニュアル等を事前に読んで疑問点などを整理しておくこと。(25時間)			
学習到達目標	認知科学・認知心理学の最新文献・論文や機器・ソフトウェアのマニュアルを読みこなし, 要約・発表またはデモンストレーションを行い, 内容に関して有用な議論を行えるようになることを目標とする。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	認知科学・認知心理学の最新文献・論文・マニュアルを読みこなし, 内容をきちんと要約・発表またはデモンストレーションを行い, 内容に関して有用な議論を行えたか。		
	成績評価 方法	担当した論文・実習の発表および議論60%, 他の回における議論への貢献40%。		
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。		
教材	教科書: 授業中に指示する。 参考書: 授業中に指示する。			
備考				

科目名	認知心理学特論				
クラス	[01クラス]	対象学年	1年,2年	開講学期	前期
				曜日・時限	火4
担当教員	河原 哲雄			単位区分	○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	認知心理学における研究方法論や哲学の変遷, 計測技術の進歩といった, これから先進的な認知心理学研究を行う上で必要となる知識や技能に関する最新の文献・論文を講読する。具体的には, 身体性認知, 感情と認知, 言語と認知, 進化心理学, 社会的認知, 協同による創造的問題解決, 構成論的アプローチなどを対象とする。				
授業方針	一人または数名で学術論文を担当し, レジユメを作成して発表するゼミ形式の授業である。発表に当たっていない受講者は, 各回の論文を事前に読み, 議論に参加する義務がある。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第 1回 身体性認知(1) 第 2回 身体性認知(2) 第 3回 感情の認知科学(1) 第 4回 感情の認知科学(2) 第 5回 言語の認知科学(1) 第 6回 言語の認知科学(2) 第 7回 進化と認知科学(1) 第 8回 進化と認知科学(2) 第 9回 社会的認知(1) 第10回 社会的認知(2) 第11回 創造的問題解決(1) 第12回 創造的問題解決(2) 第13回 構成論的アプローチ(1) 第14回 構成論的アプローチ(2) 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	(1)発表担当者は, 担当論文を読み込み, 教員の指導を受けた上でレジユメを作成し, 発表に備える。(30時間) (2)それ以外の受講者は, 各回の論文を事前に読んで疑問点などを考えておくこと。(30時間)				
学習到達目標	認知心理学の最新文献・論文を読みこなし, 内容をきちんと要約・発表して, 内容に関して有用な議論を行えるようになることを目標とする。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	認知心理学の最新文献・論文を読みこなし, 内容をきちんと要約・発表して, 内容に関して有用な議論を行えたか。			
	成績評価 方法	担当した文献・論文の発表および議論の内容60%, 他の回における議論への貢献40%。			
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。			
教材	教科書: 授業中に指示する。 参考書: 授業中に指示する。				
備考					

科目名	福祉分野に関する理論と支援の展開				
クラス	[01クラス]	対象学年	1年,2年	開講学期	後期
				曜日・時限	時間外
担当教員	藤巻 るり			単位区分	○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	福祉領域における心理臨床の仕事ではさまざまな問題を抱える人に出会う。本講義ではさまざまな障害がどのような心理学的な問題として表れてくるのかを概観し、心理臨床場面での実際の関わり方について理解を深める。				
授業方針	前半では、様々な心身の障害について担当を決めて知識を整理し、全員で議論をして理解を深める。 後半は、事例を検討することを通して、具体的な心理臨床的援助についての方法や考え方を学ぶ。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 福祉領域における心理臨床 第2回 身体障害 第3回 知的障害 第4回 発達障害 第5回 精神障害① 第6回 精神障害② 第7回 精神障害③ 第8回 事例研究① 第9回 事例研究② 第10回 事例研究③ 第11回 事例研究④ 第12回 事例研究⑤ 第13回 事例研究⑥ 第14回 事例研究⑦ 第15回 まとめおよび試験				
準備学習	分担当所については十分に文献等を調べ、議論の土台となる情報をわかりやすく伝えられるようまとめる(20時間)。 全員が自分なりの疑問点や意見などを発言できるよう、各回で学んだ内容を復習する(20時間)。 個別の事例を通して学んだことを各回ごとにまとめる(20時間)。				
学習到達目標	福祉領域におけるさまざまな障害についての理解を深め、それらの障害がどのような心理学的問題として表れてくる可能性があるのか、考えることができるようになること。また心理臨床的なアプローチの仕方について自分自身の考えを持つことができるようになること。				
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	福祉領域における各障害の理解と援助について、受講者が自分自身の臨床的問題として主体的に考えることができたか。			
	成績評価 方法	担当箇所の発表50%、授業への参加状況50%。			
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。			
教材	参考書は適宜紹介する。				
備考					

科目名	保健医療分野に関する理論と支援の展開				
クラス	[01クラス]	対象学年	1年,2年	開講学期	前期
				曜日・時限	金4
担当教員	友田 貴子			単位区分	○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	保健医療分野の心理士に求められる役割、知識及び技能について扱う。				
授業方針	心理師(士)に対して、医療分野においては心理検査や心理療法等、心理職の立場からの技術提供が求められる。また、多職種連携のためにも一定程度の医学知識が必要である。さらに、保健分野においては、乳幼児健診等の母子保健事業における母性や乳幼児の心理に関する援助、認知症が疑われる高齢者への支援等、幅広い知識と技能が求められる。 本講では、保健医療分野での心理師(士)に必要な知識について、主に症例を通して身につけていく。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 保健医療分野に関する理論と支援の展開の概観 第2回 医療・保健分野における心理職の支援の実際(1) 第3回 医療・保健分野における心理職の支援の実際(2) 第4回 医療・保健分野における心理職の支援の実際(3) 第5回 医療・保健分野における心理職の支援の実際(4) 第6回 医療・保健分野における心理職の支援の実際(5) 第7回 医療・保健分野における心理職の支援の実際(6) 第8回 医療・保健分野における心理職の支援の実際(7) 第9回 医療・保健分野における心理職の支援の実際(8) 第10回 医療・保健分野における心理職の支援の実際(9) 第11回 医療・保健分野における心理職の支援の実際(10) 第12回 医療・保健分野における心理職の支援の実際(11) 第13回 医療・保健分野における心理職の支援の実際(12) 第14回 医療・保健分野における心理職の支援の実際(13) 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	①公認心理師カリキュラムの中で、この科目がどのような位置にあるのかを概観しておく(20時間) ②保健医療分野で扱う疾患についての知識を習得しておく(40時間)				
学習到達目標	保健医療分野の心理師(士)に求められる役割、知識及び技能を理解する。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	保健医療分野の心理師(士)に求められる役割、知識及び技能について理解できたかどうか。			
	成績評価 方法	授業への参加度が60% 発表が40%			
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。			
教材	適宜紹介する				
備考					

科目名	臨床心理学研究法特別輪講			
クラス	[01クラス]	対象学年	1年	開講学期 後期
				曜日・時限 水3
担当教員	藤巻 るり, 巖 秀章, 友田 貴子			単位区分 _(選択), O(選必)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	広い意味での実証的な方法を用いてクライアントの抱える問題や社会的現実アプローチする姿勢と心理臨床におけるリサーチのあり方を指導し、修士論文のための研究の方法論について学習するものである。臨床心理学の領域は背景にある理論や臨床現場によって非常に幅広いものとなっている。			
授業方針	本輪講では、臨床心理学教育研究分野の研究指導教員と研究指導を補助する教員がそれぞれ、すでに公開した研究報告を取り上げて具体的な心理臨床のリサーチを例示し、特にその方法論に焦点を当てて、精査し、討論を行う。(オムニバス方式)			
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>藤巻: 発達や発達障害に関する文献を取り上げて、障害の理解、観察記録の分析や査定、発達支援の方法などについて学ぶ。 友田: 論文を通してさまざまな研究法やデータの取り扱い方について学ぶ。購読する論文はおって配布する。 巖: 「女子学生の分離一過期化」、「中学生の適応の諸要因」の論文では、臨床と調査研究の結合を具体的に学ぶ。「プログラムオーガニゼーションの重要性」では実験事例計画法について学ぶ。</p> <p>第 1回 臨床心理学における方法(巖) 第 2回 事例研究法 (藤巻) 第 3回 観察研究法 (藤巻) 第 4回 観察調査法 (藤巻) 第 5回 面接調査法 (藤巻) 第 6回 行動観察法 (藤巻) 第 7回 調査法または実験法(友田) 第 8回 調査法または実験法(友田) 第 9回 心理臨床業務について(友田) 第10回 倫理について(友田) 第11回 質問紙法 (巖) 第12回 質問紙法 (巖) 第13回 事例法 (巖) 第14回 研究計画 (巖) 第15回 まとめ</p>			
準備学習	事前に配布された論文に目を通しておくこと。			
学習到達目標	1) 広い意味での実証的な方法を用いてクライアントの抱える問題や社会的現実アプローチする姿勢と心理臨床におけるリサーチのあり方を理解すること。 2) 修士論文のための研究の方法論について学習すること。 3) 臨床心理学の研究倫理について理解する。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1) 広い意味での実証的な方法を用いてクライアントの抱える問題や社会的現実アプローチする姿勢と心理臨床におけるリサーチのあり方を理解できたか。 2) 修士論文のための研究の方法論について理解できたか。 3) 臨床心理学の研究倫理について理解できたか。		
	成績評価 方法	授業への参加度50%、レポート50%。		
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。		
教材	教科書: 特に指定しない。講義時に適宜資料・文献を配布または指示する。 参考書: 特になし			
備考	各回を担当する教員は、大学院生の状況を考慮して調整し、第1回に配布するプリントで最終的に周知する。			

科目名	老年心理学特論				
クラス	[01クラス]	対象学年	1年,2年	開講学期	前期
				曜日・時限	木3
担当教員	亀谷 秀樹			単位区分	○(選必)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	老化の意義について、心理学的、生物学的な立場から考察する。さらに、老化に関する代表的な生物学理論として、老化の進化理論、フリーラディカル説やテロメア説などの主要な理論を紹介する。さらに、知能・記憶・情動・人格といった心理機能の正常老化に伴う加齢変化やアルツハイマー病を中心とする老年期に特徴的な神経疾患について、最近の知見に基づいて講義し、老年心理学における重要な概念の理解を深めることができるよう教育研究を行う。				
授業方針	老年心理学で扱うテーマは幅広く学際的であるので、心理学のみならず、医学、生物学、社会学などの関連領域に関する基本的な知識を深めることを目標としている。このために、教科書の内容の紹介だけでなく、関連する新しい文献などを積極的に紹介するので、受講生はこれらの文献のレポートを作成し、一層知識と理解を深めてほしい。				
学習内容 (授業 スケジュール)	①高齢化社会の現状 ②老化の生物学理論 ③身体機能の加齢変化と疾患 ④脳の加齢変化と疾患 ⑤認知機能の加齢変化とそのメカニズム1:記憶 ⑥認知機能の加齢変化とそのメカニズム2:注意 ⑦認知機能の加齢変化とそのメカニズム3:知能 ⑧情動の加齢変化とそのメカニズム ⑨パーソナリティの加齢変化 ⑩認知症1:鑑別診断 ⑪認知症2:病因と治療 ⑫健康な高齢期の実現1-食生活 ⑬健康な高齢期の実現2-運動 ⑭健康な高齢期の実現3-ソーシャルサポート				
準備学習	①各回のテーマについて、教科書の該当箇所を読み、基本的な概念について十分に理解して授業に臨むことが望ましい。 ②適宜、基本文献を指示するので、その内容についてレポートを作成すること。				
学習到達目標	①老化の種々の理論について説明できる。 ②記憶や情動といった心理機能の加齢変化とそのメカニズムについて説明できる。 ③認知症の鑑別診断法、原因、現在研究されている治療法について説明できる。 ④食生活や運動、社会関係が高齢期の健康に及ぼす影響について説明できる。 ⑤高齢者の心理臨床的問題に対する援助技法について説明できる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	①老化の種々の理論について、重要な用語を正しく理解し、説明できるか。 ②記憶や情動といった心理機能の加齢変化とそのメカニズムについて、脳科学などの知見を含めて説明できるか。 ③認知症の鑑別診断法、原因、現在研究されている治療法について、適切に説明できるか。 ④食生活や運動、社会関係が高齢期の健康に及ぼす影響について、実証的データに基づいて説明できるか。 ⑤高齢者の心理臨床的問題に対する援助技法について、具体的に説明できるか。			
	成績評価 方法	授業参加度40%、レポート60%の割合で総合評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。			
教材	教科書及び参考書:適宜、指示する。				
備考					

科目名	<b>実験心理学特別輪講I</b>				
クラス	[01クラス]	対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	木1
担当教員	曾我 重司,大塚 聡子,河原 哲雄			単位区分	◎(必修),_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	実験心理学特別輪講 I・II は、実験心理学特別実験とともに、修士論文を作成するための必修科目として位置付けられている。実験心理学特別輪講 I は、実験心理学研究の実践に関する基礎的知識を習得することを目的とする。本輪講では、実験心理学教育研究分野の各教員が、自分の研究テーマをどのように展開し、どのような成果を得たかなどの点について講じる。また、全教員を交えて実験心理学の方法論と成果を総括し、今後のあるべき展開について討論を行う。				
授業方針	実験心理学を専門とする担当教員が、おのおのの研究領域の立場から講義を行うオムニバス授業である。授業においては、各教員が自らの研究テーマや内容、方法、成果を講じ、それに対する受講生との討論を行う。このような授業により、研究テーマの選び方や研究の進め方などに関する知識と理解を深めるよう教育研究を行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 全体討論:実験心理学とその周辺 第2回 曾我教授:視覚研究の主題 第3回 曾我教授:視覚研究の方法 第4回 曾我教授:視覚研究の成果 第5回 曾我教授:視覚研究の展開 第6回 河原教授:認知科学研究の主題 第7回 河原教授:認知科学研究の方法 第8回 河原教授:認知科学研究の成果 第9回 河原教授:認知科学研究の展開 第10回 大塚教授:知覚研究の主題 第11回 大塚教授:知覚研究の方法 第12回 大塚教授:知覚研究の成果 第13回 大塚教授:知覚研究の展開 第14回 全体討論:実験心理学の方法の問題点 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	指定された資料を事前に読み、多様な観点から討論ができるよう準備しておくこと。(40時間) 授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること。(20時間)				
学習到達目標	実験心理学の基礎的知識を習得し、かつ、それらに対して批判的討論ができるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	実験心理学の基礎的知識を習得したか。 実験心理学の研究内容について、論理的な討論ができるようになったか。			
	成績評価 方法	討論への参加の程度を50%、各教員から課される課題を50%として評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。			
教材	教科書:講義中に適宜指示する。 参考書:講義中に適宜指示する。				
備考					

科目名	実験心理学特別輪講II			
クラス	[01クラス]	対象学年	1年	開講学期 後期
				曜日・時限 月1
担当教員	曾我 重司,大塚 聡子,河原 哲雄			単位区分 ◎(必修),_(選択)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	実験心理学特別輪講IIでは、修士論文の作成に必要な発展的知識、特に論文作成の知識と技法を習得することを目的として、内外の学術論文の講読を行う。受講生は、その論文に関するレジュメを作成して発表することが求められる。また、その論文の研究概要と論文執筆の技法について担当教員による解説を行う。最終的には模擬的な論文の作成課題を実施し、その内容について各教員による評価を行う。			
授業方針	実験心理学を専門とする担当教員が、おのおのの研究領域の立場から講義を行うオムニバス授業である。授業において、受講生は各教員がそれぞれの分野から紹介する文献の内容と論文作成技法についての討論を行う。このような授業により、受講生が自らの研究テーマに基づいた研究計画を構築し、論文を執筆できるよう教育研究を行う。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 全体討論:研究論文作成技法の概説 第2回 曾我教授:視覚研究論文の講読 第3回 曾我教授:当該研究論文の手法に関する解説 第4回 曾我教授:当該研究論文の展開に関する解説 第5回 曾我教授:論文作成技法に関する解説 第6回 河原教授:認知科学研究論文の講読 第7回 河原教授:当該研究論文の手法に関する解説 第8回 河原教授:当該研究論文の展開に関する解説 第9回 河原教授:論文作成技法に関する解説 第10回 大塚教授:知覚研究論文の講読 第11回 大塚教授:当該研究論文の手法に関する解説 第12回 大塚教授:当該研究論文の展開に関する解説 第13回 大塚教授:論文作成技法に関する解説 第14回 課題学習:論文作成の実践 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	指定された資料を事前に読み、多様な観点から討論ができるよう準備しておくこと。(40時間) 授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること。(20時間)			
学習到達目標	実験心理学の発展的知識を習得し、かつ、それらに対して自らの専門分野の立脚点から批判的討論ができるようになる。 その技法を論文作成に応用できるようになる。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	実験心理学の発展的知識を習得したか。 自らの専門分野の視点から、論理的な討論・論文作成ができるようになったか。		
	成績評価 方法	討論への参加の程度を50%、各教員から課される課題を50%として評価する。		
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。		
教材	教科書:講義中に適宜指示する。 参考書:講義中に適宜指示する。			
備考				

科目名	<b>実験心理学特別実験I</b>				
クラス	[01クラス]	対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	木4,木5
担当教員	曾我 重司,大塚 聡子,河原 哲雄			単位区分	◎(必修),_(選択)
				単位数	1
概要 (目的・内容)	実験心理学特別実験 I・II は、実験心理学特別輪講とともに、修士論文を作成するための必修科目として位置付けられている。実験心理学特別実験では、受講生は、実験心理学研究教育領域の各教員が提示した研究課題をもとに研究指導教員を選択し、原則として1年間、同一の担当教員のもとで実験・調査研究を継続的に実施する。これにより、修士論文作成に必要な研究遂行に関する教育指導を行う。				
授業方針	担当教員の指導のもと、一連の実験・調査研究の手続きを実施する。研究テーマに関する討論に始まり、関連する文献の講読、自身の具体的研究内容の決定、実験・調査研究の準備ならびに実施、データ解析、研究報告書の作成を実践する。また、研究成果に関する中間発表を行う。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 受講生による修士論文の研究テーマ(案)の発表 第2回 研究テーマの妥当性に関する討論 第3回 研究に関連する文献の候補の紹介 第4回 発表文献の決定 第5回 文献の講読・発表 第6回 発表された文献内容に関する討論 第7回 発表文献に基づく具体的研究内容の設定 第8回 具体的研究計画の立案 第9回 具体的分析方法の立案 第10回 実験・調査の準備 第11回 実験・調査の実施 第12回 データ解析 第13回 考察 第14回 研究報告書の作成 第15回 まとめ及び試験				
準備学習	選択した文献を事前に熟読し、発表・討論の準備をしておくこと。(15時間) 各回に定められた内容を実施するために、事前に十分な準備を済ませておくこと。(25時間) 授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること。(20時間)				
学習到達目標	適切な研究計画をたてて実験・調査を実施し、論理的なデータ解析と考察を行って中間報告ができるようになる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	適切な研究・分析・考察を実施し、中間報告書をまとめ、成果を学術的な形式で報告できるか。			
	成績評価 方法	研究に取り組む姿勢、授業時間の発言の内容などの平常点を50%、中間報告の内容を50%として評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。			
教材	教科書：授業時に適宜指示する。 参考書：授業時に適宜指示する。				
備考					

科目名	実験心理学特別実験II			
クラス	[01クラス]	対象学年	1年	開講学期 後期
				曜日・時限 木5
担当教員	曾我 重司,大塚 聡子,河原 哲雄			単位区分 ◎(必修),_(選択)
				単位数 1
概要 (目的・内容)	実験心理学特別実験IIでは、実験心理学特別実験Iで習得したことをもとに、受講生自身が研究計画を立て、発展的な実験・調査研究を実施する。これにより、修士論文作成に必要な研究遂行に関する発展的な教育指導を行う。研究テーマに関しては、実験心理学特別実験Iと同一とする。			
授業方針	より発展的な内容について、実験・調査研究の一連の手続きを実施する。受講生は、研究計画の設定や実験・調査研究の準備・実施等を自身で進めていくというように、より主体的な活動が求められる。毎回教員に研究の進捗状況を報告し、教員はそれに対して助言ならびに受講生との議論を行う。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 実験心理学特別実験Iでの研究成果の再報告 第2回 報告された研究成果の妥当性・信頼性に関する討論 第3回 研究に発展的に関連する文献の候補の紹介 第4回 発表文献の決定 第5回 文献の講読・発表 第6回 発表された文献内容に関する討論 第7回 発表文献に基づく具体的研究内容の設定 第8回 具体的研究計画の立案 第9回 具体的分析方法の立案 第10回 実験・調査の準備 第11回 実験・調査の実施 第12回 データ解析 第13回 考察 第14回 研究報告書の作成 第15回 まとめ及び試験			
準備学習	選択した文献を事前に熟読し、発表・討論の準備をしておくこと。(15時間) 各回に定められた内容を実施するために、事前に十分な準備を済ませておくこと。(25時間) 授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること。(20時間)			
学習到達目標	適切な研究計画をたてて実験・調査を実施し、論理的なデータ解析と考察を行って成果報告書が作成できるようになる。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	適切な研究・分析・考察を実施し、成果報告書(論文)としてまとめ、成果を学術的な形式で報告できるか。		
	成績評価 方法	研究に取り組む姿勢、授業時間の発表や発言の内容などの平常点を50%、成果報告の内容を50%として評価する。		
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。		
教材	教科書: 授業時に適宜指示する。 参考書: 授業時に適宜指示する。			
備考				

科目名	臨床心理学特論I			
クラス	[01クラス]	対象学年	1年	開講学期 前期
				曜日・時限 金2
担当教員	三浦 和夫,高木 絢子			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	臨床心理学は現場から生まれた学問と言ってもよい。本講座は、1)最初の院生実習となる臨床心理センター受付実習(インテーク面接受付を含む)における様々な現場の問題を考え、実際に対応すること、2)臨床心理学概論および事例研究入門という二つの柱から構成されている。また後期に予定されているインテーク陪席に向けて、陪席とは何か、また陪席に臨む態度や記録の取り方、まとめ方まで行う予定である。			
授業方針	臨床現場でおこる様々な事柄から体験を深めてほしい。 授業では、その体験から学べることやその学びから遊離することなく、理論や事例研究を行いたい。			
学習内容 (授業 スケジュール)	1 臨床心理センター心理相談室を見学し、その役割を知る。レポート分担 2 臨床心理学概論1 3 臨床心理学概論2 4 心理相談室受付実習指導1 5 臨床心理学概論3 6 臨床心理学概論4 7 臨床心理学概論5 8 インテーク面接とは 9 インテーク陪席1 10 インテーク陪席2 11 心理相談室受付実習指導2 12 事例研究1 13 事例研究2(子ども) 14 事例研究3(大人) 15 スーパービジョンとは			
準備学習	実習については、毎回記録をとっておくこと。何がおきたのか、何をしたのか、できなかったのか。そしてどのように感じたのか。授業においては、発表者は単なる要約ではなく、必要であれば事典等もしらべること。また、自分なりの考えも発表してもらう。参加者も必ず事前にテキストを読んでおくこと。これは事例検討も同じである。			
学習到達目標	1実習体験から学ぶ 2臨床心理学の基礎を理解し説明する 3事例検討の態度を身につけ、事例検討の意義を説明できる 4記録をとり、整理し、発表できる			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1実習体験から学ぶことができたか。 2臨床心理学の基礎を理解することができたか。 3事例検討に望む態度を身につけることができたか。 4記録の取り方の基本を身につけることができたか。		
	成績評価 方法	発表および実習と授業への参加度を加味する。		
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。		
教材	随時紹介する。			
備考	現場実習を行うため、時間に遅れないこと、あいさつをすることなど、基本的な社会性が求められることは言うまでもない。			

科目名	臨床心理学特論II			
クラス	[01クラス]	対象学年	1年	開講学期 後期
				曜日・時限 木1
担当教員	小野 広明			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	心理臨床家は、対象者のかかえる種々の問題にどのようにアプローチするか、適切な心的援助とは何かについて、心理臨床現場の領域ごとに、文献講読と事例分析を基に研究討議を行う。			
授業方針	現代社会において臨床心理学の査定と療法の対象となる具体的な事象に焦点を当て、心理臨床のあり方について理解を深める。			
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 臨床心理査定的重要事項 第2回 心身の健康とは何か 第3回 心の専門家としての心理臨床家の使命 第4回 学校教育現場の心理臨床Ⅰ～教師との連携 第5回 学校教育現場の心理臨床Ⅱ～いじめ・不登校への対応 第6回 児童養護施設の心理臨床Ⅰ～児童養護施設とは何か 第7回 児童養護施設の心理臨床Ⅱ～児童への支援のあり方 第8回 司法領域の心理臨床Ⅰ～司法制度・刑事政策の理解 第9回 司法領域の心理臨床Ⅱ～犯罪・非行臨床の現状と課題 第10回 障害者施設の心理臨床Ⅰ～対象者への理解 第11回 障害者施設の心理臨床Ⅱ～対象者へのかかわり 第12回 研究討議: 講読文献の振り返り 第13回 研究討議: 心理臨床家に求められる適性・専門性 第14回 研究討議: 心理臨床への社会的期待にどう応えるか 第15回 まとめと試験			
準備学習	授業で扱う文献は必ず事前に講読しておくこと。研究討議のテーマについても予め意見をまとめておくこと。			
学習到達目標	実際の現場で心理臨床家がどのような業務を遂行しているか、直面する問題や課題は何かについての理解を深めるとともに、心理臨床家のあり方を洞察し、自分の考えをまとめられること。			
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	文献や事例の理解度。研究討議への取組み。		
	成績評価 方法	平常の授業への関与の程度で評価する。		
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。		
教材	適宜、論文等を紹介・配布する。			
備考				

科目名	心理支援に関する理論と実践				
クラス	[01クラス]	対象学年	1年,2年	開講学期	後期
				曜日・時限	金2
担当教員	三浦 和夫,高木 絢子			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	力動論及び行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法を学んだ上で、臨床心理センター実習(インテーク受付・陪席)という現場からの学びと公表されている事例研究やプレイセラピーについて学ぶ				
授業方針	臨床心理センター実習という臨床現場でおこる様々な事柄から体験を深めてほしい。また多様な心理支援に関する理論と技法(力動論及び行動論・認知論他)を概観する。				
学習内容 (授業 スケジュール)	1 センター実習指導1 2 力動論に基づく心理療法の理論と方法 3 行動論・認知論の基づく心理療法の理論と方法 4 文献講読1 5 文献講読2 6 陪席事例検討1 7 文献講読3 8 センター実習指導2 9 文献講読4 10 事例研究1 11 陪席事例検討3 12 センター実習指導3 13 事例研究2 14 事例研究3 15 まとめ				
準備学習	実習については、毎回記録をとっておくこと。何がおきたのか、何をしたのか、できなかったのか。そしてどのように感じたのか。授業においては、発表者は単なる要約ではなく、必要であれば事典等もしらべること。また、自分なりの考えも発表してもらおう。参加者も必ず事前にテキストを読んでおくこと。これは事例検討も同じである。文献については、テキストの該当箇所を精読しておくこと				
学習到達目標	1実習体験から学ぶことができたか。2臨床心理面接の基礎を理解することができたか。3事例検討に望む態度を身につけることができたか。4記録の取り方の基本を身につけることができたか。5多様な心理支援に関する理論と技法を概説できる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	1実習体験から学ぶ2臨床心理面接の基礎を理解し説明する3事例検討の態度を身につけ、事例検討の意義を説明できる4記録とり、整理し、発表できる。5主な心理支援に関する理論と技法を説明できる。			
	成績評価 方法	発表及び授業への参加度を加味する。			
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。			
教材	心理療法ハンドブック(創元社)				
備考	現場実習を行うため、時間に遅れないこと、あいさつをすることなど、基本的な社会性が求められることは言うまでもない。				

科目名	臨床心理面接特論II				
クラス	[01クラス]	対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	火2
担当教員	小野 広明			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	下記の教科書の講読と討議により、面接の効果的な実施に関するより専門的な知識を得ることを目的とする。授業は参加者個々が教科書の指定された部分の発表を行い、全員で討議する方式を採る。				
授業方針	大学院1年半の間に習得した面接に関する知識や技術についての総まとめとして位置付ける。				
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>面接は臨床査定における中心的かつ重要な技法の一つであり、面接には目的、対象者、場所等によって多様な方法がある。本授業では種々の面接についてより専門的な知識を習得することを目的とする。</p> <p>第1回 心理査定における面接の意義(講義)  第2回 心理査定面接に関する研究討議①  第3回 心理査定面接に関する研究討議②  第4回 精神分析的アプローチ(文献講読)  第5回 クライアント中心療法の発想と技術(文献講読)  第6回 ソリューション・フォーカスト・アプローチ(文献講読)  第7回 グループ・アプローチ(文献講読)  第8回 心理教育的アプローチ(文献講読)  第9回 家族療法・夫婦療法(文献講読)  第10回 物語的アプローチ(文献講読)  第11回 芸術療法(文献講読)  第12回 面接技法演習①  第13回 面接技法演習②  第14回 面接技法演習③  第15回 まとめと試験</p>				
準備学習	学部及び大学院で面接について学習したことを振り返り、面接について更に学習したい又は研究したい事項を整理しておくこと。				
学習到達目標	授業で取り上げる各々の面接技法の目的、特徴、対象者、実施方法等について理解すること。				
成績 評 価 基 準	達成度 評価基準	文献の内容を深く理解しているか、研究討議において文献理解の上で自分の意見を述べられるか。			
	成績評価 方法	受講態度等により総合的に評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。			
教材	誠信書房 臨床心理学全書 第3巻, 第8~10巻 その他				
備考					

科目名	心理的アセスメントに関する理論と実践				
クラス	[01クラス]	対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	木2
担当教員	藤巻 るり			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	心理査定は心理職の主要な業務の一つである。本演習では、臨床場面全般における心理学的な「見立て」の在り方について概観し、その中でも、心理検査を用いた心理査定を実践的に学ぶ。				
授業方針	前半は、心理臨床的な「見立て」のあり方と心理検査による査定について発表、討論を中心に学ぶ。 後半は、いくつかの心理検査を実際に施行し、所見の作成や解釈等について実践的に学ぶ。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第1回 心理臨床における査定(見立て)とは 第2回 面接場面における査定(見立て) 第3回 各種心理検査の特徴① 第4回 各種心理検査の特徴② 第5回 各種心理検査の特徴③ 第6回 心理検査実習1 第7回 心理検査実習2 第8回 心理検査実習3 第9回 心理検査実習4 第10回 心理検査実習5 第11回 心理検査実習6 第12回 心理検査実習7 第13回 心理検査実習8 第14回 事例の読み取り 第15回 まとめおよび試験				
準備学習	検査の実施方法について、予習・復習しておくこと。				
学習到達目標	各種心理査定技法や心理臨床場面全般における「見立て」の意味を理解できる。 代表的な知能検査・人格検査等の実施、分析および解釈の方法の基礎を習得できる。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	心理査定の知識と技能を習得できたか。 心理査定を行う専門家に求められる姿勢について理解できたか。			
	成績評価 方法	発表内容及び授業全般への参加態度から評価する。			
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。			
教材	参考書は適宜紹介する。				
備考					

科目名	臨床心理査定演習II			
クラス	[01クラス]	対象学年	1年	開講学期 後期
				曜日・時限 木2
担当教員	巖岩 秀章			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	心理テストや面接結果等を総合して、心理社会的視点からケースを心理学的に診断し、それに基づく治療・支援方針の策定を行うためのプロセスの基礎となる、DSMによる心理診断を学ぶ。			
授業方針	心理診断に関する講義を行った後、各自関心のあるDSMのカテゴリーについて発表する。			
学習内容 (授業 スケジュール)	DSMのカテゴリーに基づく面接診断について、講義とレポートを通して学習する。講義では主要なカテゴリーについて、具体的な事例とともに学ぶ。レポートでは自分の選んだカテゴリーについての変遷を調べるとともに、事例を捜して報告することを試みる 第1回 DSMについて 第2回 心理診断について 第3回 検査・観察・面接 第4回 心理面接方針の決定 第5回 統合失調症 第6回 気分障害 第7回 人格障害 第8回 摂食障害 第9回 発達障害 第10回 発表 統合失調症 第11回 発表 気分障害 第12回 発表 人格障害 第13回 発表 摂食障害 第14回 発表 発達障害 第15回 まとめ			
準備学習	DSMや診断に関する本・論文をよく調べること			
学習到達目標	各カテゴリーや診断について共通の理解を得る			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	各診断カテゴリーの本質や鑑別のポイントを理解したか		
	成績評価 方法	授業への参加度、発表内容及びレポートにより評価する。		
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。		
教材	別途通知する。			
備考	(履修上の注意等) 他教育研究分野の学生は受講できない。			

科目名	臨床心理基礎実習I				
クラス	[01クラス]	対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	月3,木5
担当教員	巖岩 秀章,友田 貴子			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	ロールプレイやグループ体験を通して心理臨床活動に必要な基本的態度や技術を体験的に習得することを中心とする。				
授業方針	心理臨床場面での対応の困難さを学びつつ、今後のカウンセリングやプレイセラピーに生かされるような体験を促す。				
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>(オムニバス方式)</p> <p>◆巖岩 秀章 学生がそれぞれクライアント役とカウンセラー役を交互にとり、20分程度の一対一の臨床心理面接のロールプレイを行う。臨床心理面接のロールプレイの事例は、いじめや不登校といった学校現場でよく見られるような事例とし、学生に、学校現場等における面接場面でのクライアントへの関わりについての理解を促す。また、臨床心理面接の様子を記録したものをグループで討議することで、聴く技術を高めることも狙いとする。</p> <p>◆友田 貴子 学生が2人1組となり、互いが話し手ときき手になり20分程度のロールプレイを行う。面接はICレコーダーで録音し、面接終了後、きき手が録音内容の逐語記録を作成、記録の内容についてペアによる検討およびグループ検討を行う。話し手、きき手の両方を体験することで、自分の気持ちや考えを相手に伝える大変さ、話をきく大変さを実感し、カウンセラーとしての基本的な姿勢を学ぶ。</p> <p>第 1回～第10回までの主な担当(巖岩) 第11回～第15回までの主な担当(友田)</p>				
準備学習	ロールプレイに先立ち、臨床活動に必要な基本的態度について自分なりに理解しておく(文献講読などにより)(60時間)。				
学習到達目標	ロールプレイやグループ体験を通して臨床活動に必要な基本的態度や技術を体験的に習得すること。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	ロールプレイやグループ体験を通して臨床活動に必要な基本的態度や技術を体験的に習得ができたかどうか。			
	成績評価 方法	授業への取り組み方(50%) レポート作成および発表(50%)			
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。			
教材	適宜紹介する。				
備考					

科目名	臨床心理基礎実習II			
クラス	[01クラス]	対象学年	1年	開講学期 後期
				曜日・時限 月3,木5
担当教員	友田 貴子,藤巻 るり			単位区分 ◎(必修)
				単位数 2
概要 (目的・内容)	ロールプレイおよび心理検査(投影法)を実施する。			
授業方針	ロールプレイや心理検査(投影法)の実施を通して心理臨床場面での対応の困難さを学びつつ、今後の心理療法や心理査定に生かされるような体験を促す。			
学習内容 (授業 スケジュール)	(オムニバス方式) ◆友田 貴子 前期に引き続き、ロールプレイを実施する。後期は、うつ病、さまざまな神経症、統合失調症などの精神疾患の事例を扱うこととし、それぞれの精神疾患の特徴を各自が事前に学習した上でロールプレイを実施する。それにより、カウンセリングについての共通の意識や認識の理解を促す。記録やグループ討論については前期と同様である。 ◆藤巻 るり 投影法の代表格であるロールシャッハテストについて、その実施方法とスコアリング方法および解釈を学ぶ。実施手順やスコアリングについての講義を行った上で、学生が相互にテスターと被検者を体験する。学生は自分自身の検査データをもとに、スコアリングと結果の整理を行い、主観的な体験がどのように数値化され、解釈されるのか、身をもって体験する。スコアリングの基礎を学ぶことが、必要となる情報を得るための質問の仕方などの実践方法や解釈につながるなど、実施・スコアリング・解釈という検査全体の力動を感じ取ることも狙いとする。また、さまざまな事例を通してスコアリングや解釈の練習を行っていく。 第1回～第5回までの主な担当者(友田) 第6回～第15回までの主な担当者(藤巻)			
準備学習	臨床心理基礎実習 I の単位を取得していること。 ①精神疾患についての知識を修得しておく(15時間)。 ②ロールシャッハテストの実施にあたり、基礎的な知識を習得しておく(15時間)。 ③ロールシャッハテストのスコアリングと結果の整理をおこないレポートにまとめる(30時間)。			
学習到達目標	ロールプレイでのクライアントへの態度や接し方等を体験的に理解すること。心理検査(投影法)の施行者および被検者の体験を通じて、力動的な人格理解の枠組みを理解し、基本的なスコアリングの知識を習得すること。			
成績 評価 基準	達成度 評価基準	ロールプレイでのクライアントへの態度や接し方等を体験的に理解できたかどうか。心理検査(投影法)の施行者および被検者の体験を通じて、力動的な人格理解の枠組みを理解し、基本的なスコアリングの知識を習得することができたかどうか。		
	成績評価 方法	授業への取り組み方(50%) レポートの内容(50%)		
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。		
教材	適宜紹介する。			
備考				

科目名	臨床心理実習I				
クラス	[01クラス]	対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	水4,水5
担当教員	藤巻 るり, 巖 秀章, 小野 広明, 三浦 和夫, 友田 貴子, 高木 絢子			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	臨床心理実習 I・II では、臨床心理の専門家がどのような実務に就くか、どのように実務を進めていくかをカンファランスや実習を通して学ぶ。				
授業方針	臨床心理実習 I・II とも、臨床心理学教育研究分野全教員と臨床心理学教育研究分野全院生が集まるケースカンファランスを中心に進める。				
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>1)臨床心理センター相談室の新規受理ケースについて、インテーク・カンファランスを行う。受理面接では可能な限り院生を陪席させてカンファランスで報告させ臨床心理学的介入の方針を立てたり、あるいはどのように決定されていくかを実践的に学ぶ。討議は全員参加で行う。</p> <p>2)相談室での継続事例について、担当者による経過報告とそれに関する討議を全員で行い、それを通して心理相談の経過やケースマネジメントについて実践的に理解させる。</p> <p>3)実習生の受入れが承認されている外部の実習施設で院生が体験した実習記録を報告させる。</p>				
準備学習	これまでの学習を踏まえ、活動や事例についての記録や報告の仕方をおさらいしておくこと。また実習先に行くに際しての社会的マナーを確認しておくこと。				
学習到達目標	臨床心理支援業務についての理解と実務に必要な知識やスキルの獲得				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	カンファランスで陪席や実習の報告がきちんとできるか。カンファランスの討論に参加できるか。各臨床現場において必要となる心理学的な知識やスキルを身に付けることができたか。			
	成績評価 方法	授業参加度、および実習先における臨床実践の習熟度。			
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。			
教材	特に指定しない。				
備考					

科目名	臨床心理実習II				
クラス	[01クラス]	対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	水4,水5
担当教員	藤巻 るり, 巖 秀章, 小野 広明, 三浦 和夫, 友田 貴子, 高木 絢子			単位区分	◎(必修)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	臨床心理実習 I・II では、臨床心理の専門家がどのような実務に就くか、どのように実務を進めていくかをカンファランスや実習を通して学ぶ。				
授業方針	臨床心理実習 I・II とも、臨床心理学教育研究分野全教員と臨床心理学教育研究分野全院生が集まるケースカンファランスを中心に進める。				
学習内容 (授業 スケジュール)	<p>1) 臨床心理センター相談室の新規受理ケースについて、インテーク・カンファランスを行う。受理面接では可能な限り院生を陪席させてカンファランスで報告させ臨床心理学的介入の方針を立てたり、あるいはどのように決定されていくかを実践的に学ぶ。討議は全員参加で行う。</p> <p>2) 相談室での継続事例について、担当者による経過報告とそれに関する討議を全員で行い、それを通して心理相談の経過やケースマネジメントについて実践的に理解させる。</p> <p>3) 実習生の受入れが承認されている外部の実習施設で院生が体験した実習記録を報告させる。</p>				
準備学習	これまでの学習を踏まえ、活動や事例についての記録や報告の仕方をおさらいしておくこと。また実習先に行くに際しての社会的マナーを確認しておくこと。				
学習到達目標	臨床心理支援業務についての理解と実務に必要な知識やスキルの獲得				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	カンファランスで陪席や実習の報告がきちんとできるか。カンファランスの討論に参加できるか。各臨床現場において必要となる心理学的な知識やスキルを身に付けることができたか。			
	成績評価 方法	授業参加度、および実習先における臨床実践の習熟度。			
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。			
教材	特に定めない。				
備考					

科目名	心理実践実習I				
クラス	[01クラス]	対象学年	1年	開講学期	前期
				曜日・時限	土1,土2
担当教員	藤巻 るり, 巖 秀章, 三浦 和夫, 友田 貴子, 小野 広明			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	公認心理師養成のための実習を行う授業である。心理実践実習 I・II は、本学付属臨床心理センターにおける実習(インテーク面接への陪席、センター受付業務、子育て支援幼児グループへの参加)およびその事前・事後指導が中心となる。被支援者と実際に関わり、その実践を振り返るスーパーヴィジョンの体験を通して、これまで学んできた「心理に関する支援を要する者への支援」とはどのようなものか、具体的に学ぶ。				
授業方針	臨床心理センタースタッフでもある教員から、現場で直接指導を受けながら、心理臨床業務実践を体験する。事前準備、現場における実習、事後指導(振り返り)を一つの流れとして体験する。事後指導は担当指導教員によるグループ指導が中心であり、教員と院生全員が出席するカンファレンスにおいても実習報告をする。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第一回 臨床心理センターの心理臨床業務について① 第二回 臨床心理センターの心理臨床業務について② 第三回 実習および指導① 第四回 実習および指導② 第五回 実習および指導③ 第六回 実習および指導④ 第七回 実習および指導⑤ 第八回 実習および指導⑥ 第九回 実習および指導⑦ 第十回 実習および指導⑧ 第十一回 実習および指導⑨ 第十二回 実習および指導⑩ 第十三回 実習および指導⑪ 第十四回 実習および指導⑫ 第十五回 実習および指導⑬				
準備学習	(実習前の準備)各実習場面がどのような心理支援を行う場であるか、これまでの学習内容を踏まえて自分なりに整理する。 (事後指導の準備)実習報告書を作成し、指導を受けた後は指摘を受けた課題を整理し、次の実習場面に活かしていく。				
学習到達目標	①各実習場面における心理職の役割を理解する。 ②実習場面で起きていることを心理学的な視点からとらえ、必要な支援を行う。 ③実習報告書を作成し、的確に報告を行う。 ④指導教員やその他のメンバーからの意見を踏まえて自らの実践を多角的な視点から見つめ直し、次の実践に活かす。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	上記の学習到達目標を達成しているか。			
	成績評価 方法	心理業務の遂行実績40%、指導教員のスーパーヴィジョン30%、カンファレンスにおける実習報告30%			
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。			
教材	必要に応じて配布する。				
備考					

科目名	心理実践実習II				
クラス	[01クラス]	対象学年	1年	開講学期	後期
				曜日・時限	土1,土2
担当教員	藤巻 るり, 巖 秀章, 三浦 和夫, 友田 貴子, 小野 広明			単位区分	_(選択)
				単位数	2
概要 (目的・内容)	公認心理師養成のための実習を行う授業である。心理実践実習 I・II は、本学付属臨床心理センターにおける実習(インテーク面接への陪席、センター受付業務、子育て支援幼児グループへの参加)およびその事前・事後指導が中心となる。被支援者と実際に関わり、その実践を振り返るスーパーヴィジョンの体験を通して、これまで学んできた「心理に関する支援を要する者への支援」とはどのようなものか、具体的に学ぶ。				
授業方針	臨床心理センタースタッフでもある教員から、現場で直接指導を受けながら、心理臨床業務実践を体験する。事前準備、現場における実習、事後指導(振り返り)を一つの流れとして体験する。事後指導は担当指導教員によるグループ指導が中心であり、教員と院生全員が出席するカンファレンスにおいても実習報告をする。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第一回 臨床心理センターの心理臨床業務について① 第二回 臨床心理センターの心理臨床業務について② 第三回 実習および指導① 第四回 実習および指導② 第五回 実習および指導③ 第六回 実習および指導④ 第七回 実習および指導⑤ 第八回 実習および指導⑥ 第九回 実習および指導⑦ 第十回 実習および指導⑧ 第十一回 実習および指導⑨ 第十二回 実習および指導⑩ 第十三回 実習および指導⑪ 第十四回 実習および指導⑫ 第十五回 実習および指導⑬				
準備学習	(実習前の準備)各実習場面がどのような心理支援を行う場であるか、これまでの学習内容を踏まえて自分なりに整理する。 (事後指導の準備)実習報告書を作成し、指導を受けた後は指摘を受けた課題を整理し、次の実習場面に活かしていく。				
学習到達目標	①各実習場面における心理職の役割を理解する。 ②実習場面で起きていることを心理学的な視点からとらえ、必要な支援を行う。 ③実習報告書を作成し、的確に報告を行う。 ④指導教員やその他のメンバーからの意見を踏まえて自らの実践を多角的な視点から見つめ直し、次の実践に活かす。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	上記の学習到達目標を達成しているか。			
	成績評価 方法	心理業務の遂行実績40%、指導教員のスーパーヴィジョン30%、カンファレンスにおける実習報告30%			
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。			
教材	必要に応じて配布する。				
備考					

科目名	心理実践実習Ⅲ				
クラス	[01クラス]	対象学年	2年	開講学期	前期
				曜日・時限	土3,土4,土5
担当教員	藤巻 るり,巖岩 秀章,三浦 和夫,友田 貴子,小野 広明			単位区分	_(選択)
				単位数	3
概要 (目的・内容)	公認心理師養成の実習科目である。心理実践実習Ⅲ・Ⅳは、保健医療、福祉、教育分野をはじめとする学外施設における実習およびその指導が中心となる。臨床心理センターにおける実習(心理面接、幼児グループ等)も継続する。心理実践実習Ⅰ・Ⅱを通して学んできた被支援者との実際の関わりと実践の振り返りをさらに深め、「心理に関する支援を要する者への支援」について具体的に学ぶ。学外施設では、多職種連携の視点を持ちながら心理実践を行うようにする。				
授業方針	心理実践実習Ⅰ・Ⅱと同様に、事前準備、現場における実習、事後指導(振り返り)を一つの流れとして体験する。学外施設では各現場の実習指導者から指導を受けながら心理臨床業務実践を体験する。担当指導教員からは事前・事後の個別指導を受ける。また、教員と院生全員が出席するカンファレンスにおいても実習報告をする。院生各々が異なる現場で実習していることを活かし、ディスカッションを通してさまざまな心理臨床現場の実践について積極的に学ぶ。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第一回 各外部実習先の心理臨床業務について① 第二回 各外部実習先の心理臨床業務について② 第三回 実習および指導① 第四回 実習および指導② 第五回 実習および指導③ 第六回 実習および指導④ 第七回 実習および指導⑤ 第八回 実習および指導⑥ 第九回 実習および指導⑦ 第十回 実習および指導⑧ 第十一回 実習および指導⑨ 第十二回 実習および指導⑩ 第十三回 実習および指導⑪ 第十四回 実習および指導⑫ 第十五回 実習および指導⑬				
準備学習	(実習前の準備)各実習場面がどのような心理支援を行う場であるか、これまでの学習内容を踏まえて自分なりに整理する。 (事後指導の準備)実習報告書を作成し、指導を受けた後は指摘を受けた課題を整理し、次の実習場面に活かしていく。				
学習到達目標	①各実習場面における心理職の役割を理解する。 ②実習場面で起きていることを心理学的な視点からとらえ、必要な支援を行う。 ③実習報告書を作成し、的確に報告を行う。 ④指導教員やその他のメンバーからの意見を踏まえて自らの実践を多角的な視点から見つめ直し、次の実践に活かす。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	上記の学習到達目標を達成しているか。			
	成績評価 方法	心理業務の遂行実績40%、指導教員のスーパービジョン30%、カンファレンスにおける実習報告30%			
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。			
教材	必要に応じて配布する。				
備考					

科目名	心理実践実習Ⅳ				
クラス	[01クラス]	対象学年	2年	開講学期	後期
				曜日・時限	土3,土4,土5
担当教員	藤巻 るり,巖岩 秀章,三浦 和夫,友田 貴子,小野 広明			単位区分	_(選択)
				単位数	3
概要 (目的・内容)	公認心理師養成の実習科目である。心理実践実習Ⅲ・Ⅳは、保健医療、福祉、教育分野をはじめとする学外施設における実習およびその指導が中心となる。臨床心理センターにおける実習(心理面接、幼児グループ等)も継続する。心理実践実習Ⅰ・Ⅱを通して学んできた被支援者との実際の関わりと実践の振り返りをさらに深め、「心理に関する支援を要する者への支援」について具体的に学ぶ。学外施設では、多職種連携の視点を持ちながら心理実践を行うようにする。				
授業方針	心理実践実習Ⅰ・Ⅱと同様に、事前準備、現場における実習、事後指導(振り返り)を一つの流れとして体験する。学外施設では各現場の実習指導者から指導を受けながら心理臨床業務実践を体験する。担当指導教員からは事前・事後の個別指導を受ける。また、教員と院生全員が出席するカンファレンスにおいても実習報告をする。院生各々が異なる現場で実習していることを活かし、ディスカッションを通してさまざまな心理臨床現場の実践について積極的に学ぶ。				
学習内容 (授業 スケジュール)	第一回 各外部実習先の心理臨床業務について① 第二回 各外部実習先の心理臨床業務について② 第三回 実習および指導① 第四回 実習および指導② 第五回 実習および指導③ 第六回 実習および指導④ 第七回 実習および指導⑤ 第八回 実習および指導⑥ 第九回 実習および指導⑦ 第十回 実習および指導⑧ 第十一回 実習および指導⑨ 第十二回 実習および指導⑩ 第十三回 実習および指導⑪ 第十四回 実習および指導⑫ 第十五回 実習および指導⑬				
準備学習	(実習前の準備)各実習場面がどのような心理支援を行う場であるか、これまでの学習内容を踏まえて自分なりに整理する。 (事後指導の準備)実習報告書を作成し、指導を受けた後は指摘を受けた課題を整理し、次の実習場面に活かしていく。				
学習到達目標	①各実習場面における心理職の役割を理解する。 ②実習場面で起きていることを心理学的な視点からとらえ、必要な支援を行う。 ③実習報告書を作成し、的確に報告を行う。 ④指導教員やその他のメンバーからの意見を踏まえて自らの実践を多角的な視点から見つめ直し、次の実践に活かす。				
成績 評価 基準	達成度 評価基準	上記の学習到達目標を達成しているか。			
	成績評価 方法	心理業務の遂行実績40%、指導教員のスーパーヴィジョン30%、カンファレンスにおける実習報告30%			
	成績評価	埼玉工業大学大学院人間社会研究科規程第15条に定める。			
教材	必要に応じて配布する。				
備考					